DITシリーズ

デジタル・インフォメーション・ターミナル

DIT-1000W18TV

ユーザーズマニュアル

株式会社コンテック

梱包内容をご確認ください

このたびは、本製品をご購入いただきまして、ありがとうございます。
本製品は次の構成となっています。
構成品リストで構成品を確認してください。万一、構成品が足りない場合や破損している場合は、お買い求めの販売店、または総合インフォメーションにご連絡ください。登録カードは、新製品情報などをお客様にお知らせする際に必要なカードです。ご記入の上、必ずご返送くださいますようお願いします。

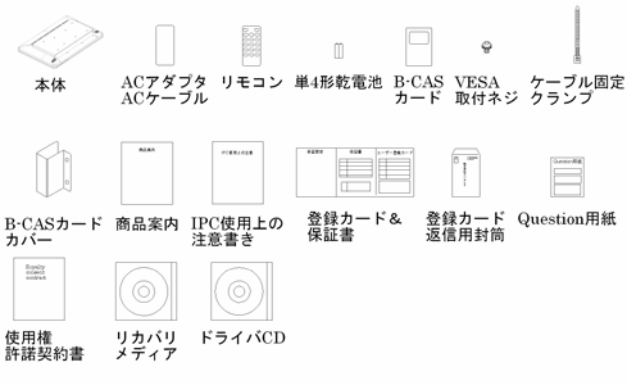
■構成品リスト

	DIT-1000W18TV-DC6411 [OS プリインストールモデル]
名称	数量
本体	1
AC アダプタ本体	1
AC 電源ケーブル *1	1
リモコン	1
単 4 形乾電池	2
B-CAS カード	1
B-CAS カードカバー*2	1
VESA 取り付けネジ	4
ケーブル固定クランプ	1
商品案内	1
IPC 使用上の注意書き	1
登録カード&保証書	1
登録カード返信用封筒	1
Question 用紙	1
使用権許諾契約書	1
リカバリメディア	1
ドライバ CD	1

*1　添付のAC電源ケーブルはAC100V用です。使用される電圧やコンセント形状によっては適合するケーブルを別途ご用意していただく必要があります。また、同梱のACアダプタ以外で使用することはできません。

*2　本体に取り付け済み

■構成品イメージ



※構成品の有無、数量は構成品リストを参照ください。

ご注意

(1) 本書の内容の全部、または一部を無断で転載することは禁止されています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店へご連絡ください。
(4) 本製品の運用を理由とする損失、逸失利益などの請求につきましては、前項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。
(5) Intel、Intel Atom、Intel Core、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。Microsoft, Windowsは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
その他、本書中に使用している会社名および製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

目次

梱包内容をご確認ください i
目次 iii

第１章 はじめに 1

概要 1
◆特長 1
◆対応OS 2
サポートのご案内 3
◆ホームページ 3
◆総合インフォメーション(お問い合わせ窓口) 3
◆修理窓口 4
◆製品貸出サービス 4
◆各種セミナ 4
◆FA/LA無料相談コーナー 4
◆システム受託開発、OEM受託 4
安全にご使用いただくために 5
◆安全情報の表記 5
◆使用上の注意 5
◆対応無線LAN規格について 5
◆セキュリティに関する注意事項 6
◆DIT-1000シリーズの注意事項 7

第２章 システムリファレンス 11

仕様 11
電力管理機能 15
電力に関する要求 15
外形寸法 16

第３章 ハードウェアのセットアップ 17

ご使用にあたって 17
ハードウェアのセットアップ 18
◆B-CASカードセットアップ 18
◆電池のセット 19
◆アンテナの接続 20
◆FGの取り付け 20
◆ケーブルの固定 20
◆設置方法 21

第４章 各部の名称および機能 23

各部の名称 23
各部の機能 25
◆LED: POWER LED 25
◆DC電源入力コネクタ: DC-IN 25
◆PC電源スイッチ: PC-POWER SW 25
◆ヘッドホン出力インターフェイス: PHON OUT 25
◆フロントスイッチ: FRONT SW 26
◆ギガビットイーサネット:LAN 27
◆USBポート: USB 27
◆シリアルポートインターフェイス:SERIAL A - B 28
◆HDMI入力: HDMI IN 29
◆コンポジット入力: COMPOSITE IN、AUDIO-IN 29

第５章 リモコンでの操作 31

リモコンの各部の名称 31

第６章 各種設定、画面調整 33

OSDメインメニュー 33
◆画面設定 33
◆音声設定 34
◆デジタル設定 34
◆PC設定 35
◆その他の設定 35
デジタルメニュー 36
◆TV機能の初期設定 36
◆BS/CSアンテナ電源設定 39

第７章 タッチパネル 41

タッチパネル設定 41
◆キャリブレーション 41
◆その他の設定 43

第８章 無線LANの設定 45

◆接続状態の確認 45

第９章 BIOSセットアップ 47

概要 47
◆セットアップの開始 47
◆セットアップの操作 48
◆Getting Help 48
◆In Case of Problems 48
◆A Final Note About Setup 48
メインメニュー 49

◆設定項目 49
Standard CMOS Setup 51
メインメニューの選択肢 52
◆IDEアダプタ 53
Advanced BIOS Features Setup 54
CPU Feature 55
Hard Disk Boot Priority 56
◆Virus Warning 57
Advanced Chipset Features Setup 62
PCI Express Root Port Function 65
VGA設定 66
Integrated Peripherals 67
OnChip IDE Device 68
On Chip Serial ATA設定 72
Onboard Device 73
Super IO Device 75
Power Management Setup 77
PnP/PCI Configuration Setup 82
PC Health Status 84
Frequency/Voltage Control 86
Defaults Menu 87
Supervisor/User Password Setting 88
Exit Selecting 89

第１０章　付録 91

メモリマップ 91
I/Oポートアドレス 92
割り込みレベル一覧 93
電池 94

第１章 はじめに

概要

本製品は、ハイビジョンテレビ機能付きタッチパネルコンピュータです。

地上デジタル/BS/110度CSの3波TVチューナーを搭載したテレビ機能とパソコン機能とは完全に独立した設計であるため、パソコンの起動を待たずに電源ONですぐにテレビを見ることができます。

パソコン機能としては、省電力CPU(Intel® Atom™ プロセッサ N270)および高解像度の18.5型タッチパネルLCDを搭載、1000BASE-T、USB2.0、シリアルなど多彩な拡張インターフェイスを装備しています。また、組み込み機器向けOS Windows Embedded Standard 2009を搭載、Windowsアプリケーションに広く対応することができます。

さらに、デジタルチューナーやコンポジット/HDMI入力端子を搭載していますので、TVや外部映像機器を接続しての表示など、様々な用途にご利用いただけます。

CPUやチップセットにEmbeddedタイプを採用。安定供給が可能なパーツの使用により、安心してご使用いただけます。

◆特長

■電源ONで、すぐにテレビが起動

テレビチューナー内蔵のパソコンとは異なり、パソコン機能とテレビ機能(地上デジタル/BS/110度CSの3波対応)が独立している為、パソコンの起動を待たずに電源ONですぐにテレビを見ることができます。操作は、リモコンで簡単に切り替えが可能です。

■パソコンアプリが動く

組み込み機器用OS Windows Embedded Standard 2009を搭載しています。パソコン用ソフトの開発環境で情報端末のアプリケーションを構築することができます。

■タッチパネルで楽々操作

18.5型ワイドのタッチパネル液晶画面、長寿命・省電力LEDバックライトを採用しています。画面にタッチして操作できるので、コンピュータの苦手な使用者でも安心してご利用できます。

■安全性、衛生を考慮したデザイン

筐体は安全性を考慮した角がない丸みのあるデザインであり、衛生的なホワイトの樹脂筐体を採用しています。

■専用リモコンを同梱

専用リモコンを同梱しています。離れた場所からのPC/TV/映像入力切り替えやTV操作などが行えます。

■コンポジット/HDMI入力端子を搭載

コンポジット入力に加え、HDMI入力端子を搭載しています。HDMI出力可能な機器を接続することにより、高品質な映像を表示することが可能です。

■IEEE802.11n/b/g準拠、WPA対応の無線LANを搭載

IEEE802.11n/b/g規格に準拠。アンテナは筐体に内蔵しており、美観を考慮した設計となっています。

■ステレオスピーカー/ヘッドホン端子を搭載
3W+3Wの出力を持つステレオスピーカーを搭載しています。またヘッドホン端子も搭載しています。

■VESA規格に対応した取り付け構造
VESA規格75×75mm 、100×100mmに対応した取り付け構造により、LCDアームへの設置が可能です。

■保守点検業務を軽減するスリットレス・ファンレス設計
CPUファンを廃しストレージにSSDを採用した完全スピンドルレス設計です。ホコリや異物が侵入する心配がなく、経年劣化する部品の使用を極力抑えて保守点検業務の負担を大幅に軽減します。

■周辺機器を自在に拡張可能。豊富なインターフェイス
PS/2、1000BASE-T、USB2.0×6、シリアル(RS-232C)×2などの拡張インターフェイスを搭載。

◆対応OS

- Windows Embedded Standard 2009

サポートのご案内

当社製品をより良く、より快適にご使用いただくために、次のサポートを行っております。

◆ホームページ

日本語	http://www.contec.co.jp/
英語	http://www.contec.com/
中国語	http://www.contec.com.cn/

■最新製品情報

製品の最新情報を提供しています。
また、PDFファイル形式の製品マニュアル、各種技術資料なども提供しています。

■無償ダウンロード

最新のドライバソフトウェア、差分ファイルをダウンロードできます。
また、各種言語のサンプルプログラムもダウンロードできます。

■資料請求

カタログの請求が行えます。

■製品貸出サービス

製品貸出の依頼が行えます。

■イベント情報

当社主催/参加のセミナおよび展示会の紹介を行っています。

◆総合インフォメーション(お問い合わせ窓口)

■技術的なお問い合わせ

当社製品に関する技術的なお問い合わせは、総合インフォメーションで受け付けています。
E-mail(tsc@contec.jp)またはFAX*1でお問い合わせください。専門のスタッフが対応します。
製品添付、添付CD内またはホームページ(http://www.contec.co.jp/support/contact/)にあるQuestion用紙に必要事項を記入の上、お送りください。

*1 FAX番号はQuestion用紙に記載されています。

■その他の製品情報のお問い合わせ

製品の価格・納期・見積もり依頼などのお問い合わせは、販売店または当社各支社・営業所までお問い合わせください。

◆修理窓口

修理の依頼は、お買い求めの販売店経由で受け付けています。
保証書に記載の条件のもとで、保証期間中に製品自体に不具合が認められた場合は、その製品を無償で修理または交換いたします。
保証期間終了後、または保証条件外での修理は、有償修理となりますのであらかじめご了承ください。
なお、対象は製品のハードウェア部分の修理に限らせていただきます。

◆製品貸出サービス

製品を評価・理解していただくため、製品の貸出サービスを行っております。
詳細は、当社ホームページをご覧ください。

◆各種セミナ

新製品の紹介・活用方法、システム構築のための技術習得など、各種セミナを行っております。出張プライベートセミナも承ります。詳細は、当社ホームページをご覧ください。

◆FA/LA無料相談コーナー

「FA/LA無料相談コーナー」は、お客様がシステムを構築する際に当社製品の選定の相談をお受けする窓口です。面談によるシステム相談を専門スタッフが担当いたします。
お問い合わせは、当社各支社・営業所までご連絡ください。

◆システム受託開発、OEM受託

ソフトウェア/ハードウェアの導入方法やシステム構築のご相談、お客様オリジナル・デザインのシステムを製品化し供給するODMやOEMのご提案を行います。
詳しくは、E-mail(sales@contec.jp)または当社各支社・営業所までお問い合わせください。

安全にご使用いただくために

次の内容をご理解の上、本製品を安全にご使用ください。

◆安全情報の表記

本書では、人身事故や機器の破壊をさけるため、次のシンボルで安全に関する情報を提供しています。内容をよく理解し、安全に機器を操作してください。

⚠ 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

◆使用上の注意

本製品は、電波法における「小電力データ通信システムの無線局の無線設備」であり、無線免許は必要ありません。本製品の内部を改造することは法律で禁止されています。また、本製品は、国内の電波法により認定されたもので、海外ではご使用になれません。

◆電波干渉に関する注意

本製品が使用する2.4GHz帯域では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)ならびにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに使用周波数を変更するか電波の発射を停止した上、総合インフォメーションまでご連絡いただき、混信回避のための処置等(例えばパーティションの設置など)についてご相談ください。
3. その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、総合インフォメーションまでお問い合わせください。

◆対応無線LAN規格について

本製品はIEEE802.11n/b/gに準拠しています。

IEEE802.11b/g/n

◆セキュリティに関する注意事項

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁等)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、IDやパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報、メールの内容等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)
- コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LAN機器は、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていません。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LAN機器をご使用になる前に、必ずセキュリティに関するすべての設定をマニュアルにしたがって行ってください。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、総合インフォメーションまでお問い合わせください。

お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

◆DIT-1000シリーズの注意事項

■取り扱い上の注意

⚠ 警告

- 電源ケーブルの取り付け、取り外しは必ず電源が供給されていないことを確認してから行ってください。
- 人命または重大な損害を伴う恐れのある処理を、タッチパネルによる操作で行わないでください。
- 本製品の改造は行わないでください。
- 各ボード、ケーブルの抜き差しは必ず電源を切ってから行ってください。
- 本製品は航空、宇宙、原子力、生命維持のための医療機器など、高度な信頼性が必要な用途への使用を想定していません。これらの用途には使用しないでください。
- 本製品を列車、自動車、防災防犯装置など安全性に関わる用途にご使用の場合、お買い求めの販売店または当社総合インフォメーションにご相談ください。
- 不適切なバッテリの交換は爆発の危険がありますので行わないでください。
- バッテリの交換が必要な場合は修理となりますので、販売店または当社各支店・営業所までお問い合わせください。
- 使用済みバッテリを廃棄される場合には自治体の指示に従って適切に廃棄してください。

⚠ 注意

- 仕様の範囲を越える高温下や低温下、または温度変化の激しい場所での使用および保管はしないでください。
  例　　・直射日光の当たる場所　　・熱源の近く
- 極端に湿気の多い場所や、ほこりの多い場所での使用および保管はしないでください。内部に水や液状のもの、導電性の塵が入った状態で使用すると非常に危険です。このような環境で使用するときは、防塵構造の制御パネル等に設置するようにしてください。
- 仕様の範囲を越える衝撃や振動の加わる場所での使用および保管は避けてください。
- 強い磁気や雑音を発生する装置の近くで使用しないでください。本製品が誤動作する原因となります。
- 薬品が発散している空気中や､薬品にふれる場所での使用および保管は避けてください。
- 本製品の汚れは､柔らかい布に水または中性洗剤を含ませて軽く拭いてください｡ベンジン、シンナーなど発揮性のものや薬品を用いて拭いたりしますと、塗装の剥離や変色の原因となります。
- 本製品の筐体裏面は、高温になる場合があります。火傷の恐れがありますので、動作時および電源OFF直後は直接手を触れないようにしてください。また、この部分に手を触れる可能性のある場所への設置はお避けください。
- いかなる原因によっても当社ではSSDの記録内容に関する保証は負いかねます。
- 本製品の電源はファイルの破損を防ぐため、必ずOS終了後に切ってください。
- 本製品を改造したものに対しては、当社は一切の責任を負いかねます。
- 故障や異常(異臭や過度の発熱)に気づいた場合は、電源コードのプラグを抜いて、お買い求めの販売店または当社総合インフォメーションにご相談ください。
- 周辺機器との接続ケーブルは、接地されたシールドケーブルを使用ください。
- シャープペンシルなどの先の鋭利なもので、タッチパネルを操作しないでください。
  キズの原因になったり、誤動作する恐れがあります。
- タッチパネルに衝撃を加えないでください。破損の恐れがあります。
- タッチパネルの表面および筐体が汚れた場合は、中性洗剤で拭き取ってください。
  シンナー、アンモニア、強塩化系の溶剤で拭かないでください。
- アナログタッチパネルの特性として、周囲環境(温湿度)の変化、経時変化により抵抗値が変化し、検出位置がずれてくる場合がありますので、このようなときはタッチパネルのキャリブレーションを再度実行し、キャリブレーションデータを再設定してください。
- 液晶表示機には僅かな常時点灯の輝点や常時消灯の滅点が生じる場合があります。また、見る角度によって色むらを生じる場合がありますがこれは液晶ディスプレイの構造によるもので故障ではありません。
- 焼き付きについて
  同一画面を長時間表示していると「焼き付き*」が生じる場合があります。焼き付きを防ぐには、表示画面を周期的に切り替えて、同一画面を長時間表示しないようにしてください。
  * 焼き付き･･･同一画面を長時間表示すると、TFT表示機の特性として、パターンを替えた後も液晶素子に電荷が残り、薄く表示が残る現象
- リモコンの電池は新しい電池と古い電池を混ぜて使わないでください。

・ 次のような場合、表示が一瞬乱れる場合がございますが、解像度変更による画面調整のためであり動作に問題はございません。
  ・ Windwosの起動時および終了時
  ・ 解像度等の変更時
  ・ PCとTVまたは外部入力の切替時
・ 構成部品の寿命について

(1)バッテリ･･･　内部カレンダ時計、CMOS RAMのバックアップにリチウム一次電池を使用しています。
無通電時のバックアップ時間は25℃において8年以上です。

(2)バックライト･･･バックライト定格寿命は、30,000時間です。
※周囲温度25℃±5℃、最大輝度設定、初期輝度の50%まで低下

(3)タッチパネル･･･打点寿命は100万回以上です。
※荷重2.45N(250g)、スピード2回/秒、先端形状シリコンゴム

(4)SSD･･･　OS格納領域にSSDを使用しています。
推定故障率は、書き換え回数10万回、MTBF2,000,000時間です。

(5)TVチューナーボード･･･周囲温度25℃において約20,000時間です。

* 消耗部品の交換につきましては修理扱い(有償)にて対応させていただきます。

* 消耗部品の寿命については参考値であり、保証するものではないことをご了承ください。

VCCI クラスB注意事項

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

第２章 システムリファレンス

仕様

表2.1 機能仕様 < *1 / 2* >

型式		DIT-1000W18TV-DC6411
取り付けタイプ		VESA取り付け（100×100mm、75×75mm）
CPU		Intel® Atom™ Processor N270 (1.60GHz / FSB533MHz)
チップセット		Intel® 945GSE + ICH7M
BIOS		Award製BIOS
メモリ		標準2GB (240ピンDIMM×2), PC2-4300 DDR2 SDRAM
グラフィック	コントローラ	Intel® GMA950 (945GSEチップセット内蔵)
	Video RAM	メインメモリと共用
表示方式	液晶パネル	18.5インチTFTカラーLCD, WXGA(1,366×768), 1,677万色
	バックライト	LED方式
タッチパネル	分解能	4,096×4,096 (1,366×768でエミュレーション)
	検出方式	抵抗膜アナログ方式
チューナー		地上アナログ/地上デジタル/BSデジタル/110度CSデジタルチューナー *1 *2
オーディオ		AC97準拠
Serial ATA		シリアルATA1.0準拠 2.5インチSSD実装済み（8GB、1パーティション）*3
LAN		Realtek RTL8111DLコントローラ 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
無線LAN		IEEE802.11n/b/g準拠 無線LAN
USB		USB 2.0準拠 6ポート
シリアル		RS-232C：2ポート，ボーレート： 50 - 115,200bps
キーボード I/F		PS/2タイプ キーボード対応（6ピン MINI DINコネクタ）
マウス I/F		PS/2タイプ マウス対応（6ピン MINI DINコネクタ）
ハードウェアモニタ		CPU温度，ボード温度，電源電圧の監視
リアルタイムクロック		ICH7M-DH内蔵，精度(25℃): ±3分/月，リチウム電池バックアップ寿命: 8年以上
パワーマネージメント		BIOSによるパワーマネージメント設定, Power On by Ring/Wake On Lan機能, PC98/PC99 ACPIパワーマネージメントサポート

*1： 地上デジタル/BSデジタル/110度CSデジタル放送を視聴するためには、B-CASカードを必ず本機に挿入しておく必要があります。

*2： 双方向通信は非対応です。

*3： SSDの容量は、1GBを10億Byteで計算した場合の値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示される場合があります。

表2.1 機能仕様 <*2 / 2*>

型式		DIT-1000W18TV-DC6xxx
インターフェイス	アンテナ端子	F型端子×2（地上デジタル、BS/CSデジタル）
	B-CAS	B-CASカードスロット×1
	HDMI入力	HDMI1.2準拠、HDCP1.1対応 480i, 480p, 576i, 576p, 720p, 1080i, 1080p
	コンポジット入力	RCA端子、映像：NTSC 1.0V(p-p)±5%、75Ω
	音声入力	RCA端子・L/R×2
	ヘッドホン出力	ライン出力：3.5φステレオミニジャック
	内蔵スピーカー	最大出力 3W+3W @4Ω
	LAN	1ポート（RJ-45コネクタ）
	USB	6ポート（A-TYPEコネクタ）
	RS-232C	2ポート（9ピンD-SUBコネクタ[オス]）
電源	定格入力電圧	12VDC±5% *4
	消費電力	7A (Max.)
	外部機器供給電源容量	USBポート: +5VDC 2A (1スロット当り500mA) *5
外形寸法(mm)		467.4(W)×303.0(H) ×67.5 (D) (突起部を含まず)
質量		約7.5kg

*4： ACアダプタは必ず本機に付属のものをお使いください。他のACアダプタは使用しないでください。

*5：無線LANご使用時は、6スロット合計で1.5A以下となるようにしてください。

表2.2 環境仕様

型式		DIT-1000W18TV-DC6xxx
使用周囲温度		0 - 40℃
保存周囲温度		-10 - 60℃
周囲湿度		10 - 90%RH(ただし、結露しないこと)
浮遊粉塵		特にひどくないこと
腐食性ガス		ないこと
耐ノイズ性	静電耐久	接触/±4kV (IEC61000-4-2 Level 2, EN61000-4-2 Level 2), 気中/±8kV (IEC61000-4-2 Level 3, EN61000-4-2 Level 3)
耐振動性		3 - 500Hz/1.0G (非動作時), 0.25G(動作時) Z方向60分
接地		D種接地(旧第3種接地), SG-FG/導通

表2.3　ACアダプタ仕様

型式		DIT-1000W18TV-DC6xxx
ACアダプタ	定格入力電圧範囲	100 - 240VAC (連続入力)、50 - 60Hz
	入力電圧許容範囲	90 - 264VAC (連続入力)、50 - 60Hz
	入力電流	1.5A Max. (AC IN 90V)
	定格出力電圧	+12VDC±5%
	定格出力電流	7.5A (Max.)
	許容瞬時停電	5ms以下
	寿命　*1	20,000H (周囲温度25℃、最大負荷時) 64,000H (周囲温度25℃、定常負荷時) *2

*1　寿命は参考値であり、保証する値ではありませんことをご了承ください。

*2　OS起動後、ソフトウェアが特に動作しない状態

表2.4　リモコン仕様

型式		DIT-1000W18TV-DC6xxx
リモコン	送信方式	赤外線方式
	操作距離	約6m以内（本体正面距離)、左右±30°以内、上下±30°以内
	電源	単4形乾電池2個使用
	外形寸法	49.0×205.0(H) ×17.0 (突起部を含まず)
	質量	約100g (電池含む)

表2.5　無線LAN仕様

型式	DIT-1000W18TV-DC6xxx	
IEEE802.11n	伝送形式	IEEE802.11n準拠 OFDM (直交周波数分割多重) 方式
	チャネル	13ch (1-13)
	データ転送速度 *1	6.5 – 300Mbps [MCS15-0, Long / Short GI]
	無線カテゴリ	小電力データ通信システム(2.4 – 2.4835GHz)
IEEE802.11b	伝送形式	IEEE802.11b準拠　DSSS方式
	チャネル	14ch (1-14)
	データ転送速度 *1	1, 2, 5.5, 11Mbps
	無線カテゴリ	小電力データ通信システム(2.4 – 2.497GHz)
IEEE802.11g	伝送形式	IEEE802.11g準拠 OFDM (直交周波数分割多重) 方式
	チャネル	13ch (1-13)
	データ転送速度　*1	6, 9, 12, 18, 24, 36, 48, 54Mbps
	無線カテゴリ	小電力データ通信システム (2.4 – 2.4835GHz)
IEEE802.11b/g/n	セキュリティ	WEP (64/128bit)、WPA、WPA2

*1　無線LAN規格の理論値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

■ディスプレイ光学仕様

表2.6 ディスプレイ光学仕様

項目	条件			最小	標準
視角(上下)	CR≧10	ϕ = 180°	表示 白/黒	70deg	80deg
		ϕ = 0°		70deg	80deg
視角(左右)		ϕ = +90°		75deg	85deg
		ϕ= -90°		75deg	85deg
表面輝度(中央部)	表示 白			200cd/m²	250cd/m²

* 表面輝度は、ディスプレイ単体での数値です。タッチパネルを通した輝度は、上記の80%程度の数値となります。

$$\text{コントラス比 (CR)} = \frac{\text{白色表示の画面中央輝度}}{\text{黒色表示の画面中央輝度}}$$

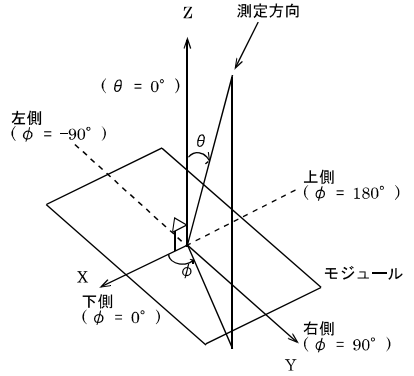


図2.1 視角範囲の定義

⚠ 注意

光学仕様のデータは、本機搭載液晶の光学的特性であり、実際の見え方や視野角とは異なります。

電力管理機能

- ACPI (Advanced Configuration and Power Interface)およびレガシー方式の(APM)電力管理をサポートします。
- ACPI v2.0対応
- APM v1.2対応
- ハードウェアの自動ウェイクアップに対応

電力に関する要求

本製品への電源は、必ず添付のACアダプタを使用してください。

外形寸法

■DIT-1000W18TV-DC6xxx

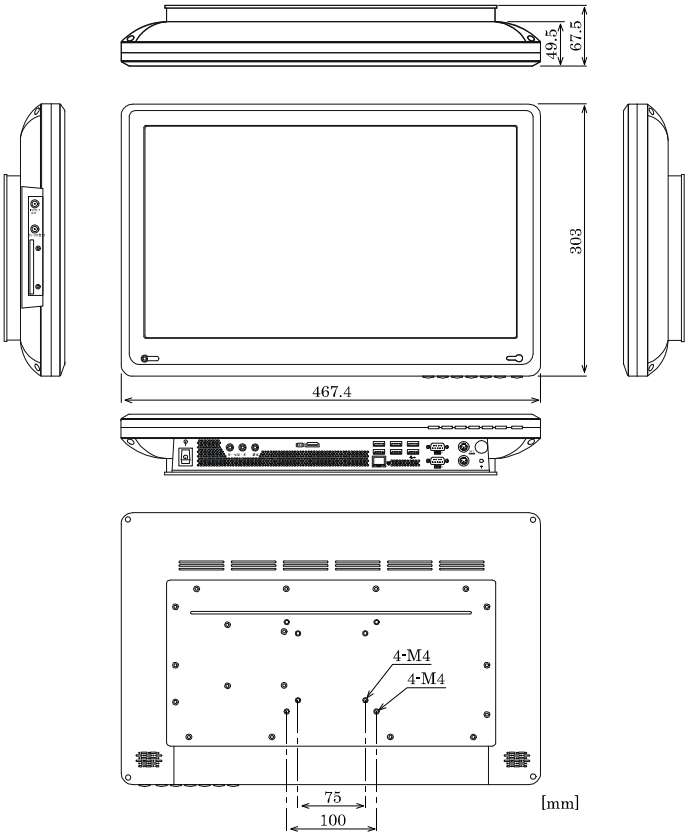


図2.2　DIT-1000W18TV-DC6xxx外形寸法

第３章 ハードウェアのセットアップ

ご使用にあたって

以下の手順で本書を活用いただき、本製品のセットアップを行ってください。

STEP1　この章の説明を参照の上、設置・接続・設定を行ってください。

STEP2　ケーブルの接続
ACアダプタおよびキーボードやマウスなど必要な外部機器のケーブルを本製品と接続してください。

STEP3　電源の投入
STEP1 - 2が正しく実施されていることを再度確認し、電源をONにしてください。電源をONにした後異常を感じた場合にはただちに電源をOFFにし、正しくセットアップが行われているかどうかを確認してください。

STEP4　BIOSセットアップ
第9章を参照し、BIOSセットアップを実行してください。なお、BIOSセットアップを行うためにキーボードが別途必要になります。

* ご使用になる前は必ず「LOAD SETUP DEFAULTS」を実行してBIOSのセットアップ状態を初期値にしてください。
(第9章「Main Menu」参照)

⚠ 注意

初めて電源を投入する前に、必ずキーボードとマウスを接続してください。

ハードウェアのセットアップ

- 作業前に電源がOFFになっていることを確認してください。
- 説明しているネジ以外は外さないようにしてください。

◆B-CASカードセットアップ

(1) B-CASカードの取り出し

付属のB-CASカードを台紙から取り外します。台紙を開封すると、台紙に印字されている契約約款に同意したものと見なされますので、開封前に必ず契約約款をお読みください。

(2) B-CASカードカバーの取り外し

ネジ2箇所を取り、B-CASカードカバーを取り外します。

図3.1　B-CASカードカバーの取り外し

(3) B-CASカードを本体に挿入します。

添付のB-CASカードを本機側面にあるカード挿入口に差し込みます。
カードを図のように矢印のある印刷面を上側にして、奥までしっかりと挿入してください。

図3.2　B-CASカードの挿入

(4) B-CASカードカバーの取り付け

必要に応じて、B-CASカードカバーを取り付けます。

図3.3　B-CASカードカバーの取り付け

⚠ 注意

- B-CASカード以外のものを挿入しないでください。故障や破損の原因となります。
- 裏向きや逆向きに挿入しないでください。挿入方向を間違えるとB-CASカードは機能しません。
- ご使用中は抜き差しをしないでください。視聴できなくなる場合があります。
- カードを紛失、破損した場合や、盗難にあったときは、(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ　カスタマーセンターにご連絡ください(連絡先はカード台紙に記載されています)。

◆電池のセット

リモコンに電池をセットします。

(1) リモコン裏面の電池カバーを取り外します。

(2) 極性に注意し、添付の単4乾電池2本をセットします。

(3) 電池カバーを取り付けます。

⚠ 注意

- 電池の向きを確認し、+/ - を正しく入れてください。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- リモコンを落としたり、分解したりしないでください。
- 液漏れを防止するため、長時間リモコンを使用しないときや電池が消耗したときはすぐに電池を取り出してください。

◆アンテナの接続

(1) 市販のアンテナ線をアンテナ入力端子に接続します。

本体横面にはVHF/UHFアンテナ入力端子、およびBS/CSアンテナ入力端子があります。アンテナケーブルや分配器などを使用するアンテナに応じて接続してください。

なお、アンテナケーブルは添付しておりませんので別途ご用意ください。

BS/CSアンテナを直接本機に接続する場合には、アンテナへの電源供給が必要です、
電源供給を行う場合には、P.39 「BS/CSアンテナ電源設定」を参照し設定を変更してください。

◆FGの取り付け

(1) FGをネジ止めします。

図3.4 FGの取り付け

⚠ 注意

本製品のFG端子は、DC電源コネクタ(DC-IN)のGND信号と導通されています。
なお、導通状態を切り離しできません。
指定以上の締め付けトルクでネジ止めすると、ネジ穴が壊れる場合があります。
適正なネジの締め付けトルクは、5 - 6 kgf･cmです。

◆ケーブルの固定

本製品には、ケーブル結束用のケーブルタイを添付しています。
必要に応じてケーブルを固定してください。

◆設置方法

■VESA規格75/100mmの固定穴を使用した取り付け

本製品はVESA規格での取り付けに対応しており、本体にVESA規格75/100mmに対応した固定穴があります。
卓上でVESA規格75/100mmのスタンド等を使用する場合、下図のように取り付けることができます。

スタンド使用時は添付の取り付けネジを使用してください。

図3.5　VESA固定穴での取り付け

第４章 各部の名称および機能

各部の名称

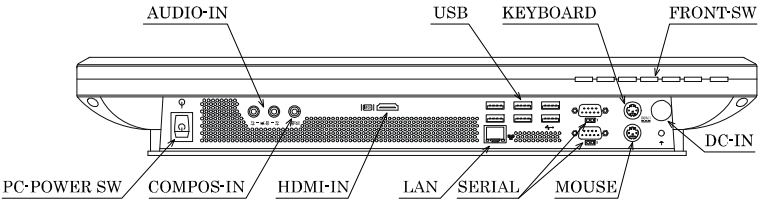


図4.1　各部の名称(コネクタ部)

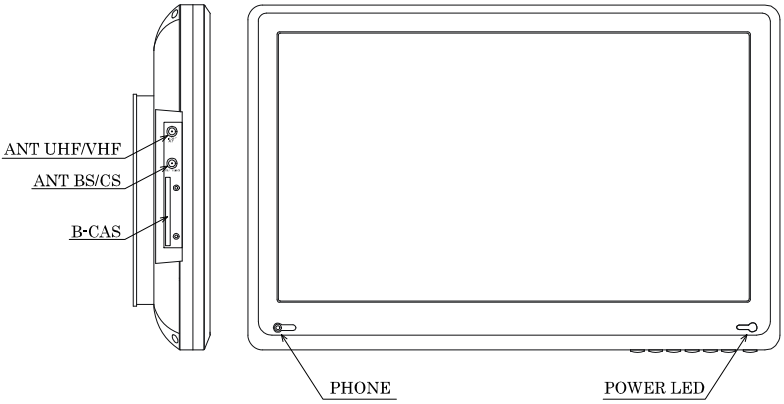


図4.2　各部の名称(フロント、サイド部)

表4.1 各部の機能

名称	機能
POWER-SW	PCパワースイッチ
POWER LED	電源ON表示LED
DC-IN	DC電源入力コネクタ
PHON	ヘッドホン出力（3.5Φ PHONE JACK）
FRONT SW	画面調整スイッチ
LAN	Ethernet 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T RJ-45コネクタ
USB	USBポートコネクタ×6
SERIAL A	シリアルポートAコネクタ（9ピンD-SUB・オス）
SERIAL B	シリアルポートBコネクタ（9ピンD-SUB・オス）
HDMI IN	HDMI入力コネクタ
COMPOSITE IN	コンポジット入力　RCA端子
AUDIO IN	音声入力　RCA端子×2
ANT VHF/UHF	F型コネクタ
ANT BS/CS	F型コネクタ
B-CAS	B-CASカードスロット

各部の機能

◆LED: POWER LED

本製品の前面にはPOWER LEDが装備されています。

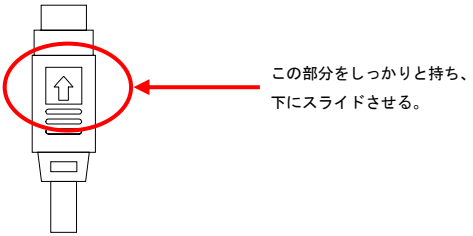
表4.2　LEDの表示内容

LEDの名称	状態	表示内容
POWER LED	消灯	本製品に電源が供給されていない状態であることを示します。
	点灯(橙)	モニタの電源がOFF状態であることを示します。
	点灯(青)	TVまたはPCの電源がON状態であることを示します。

◆DC電源入力コネクタ: DC-IN

必ず添付のACアダプタを接続してください。
ACアダプタを接続し、電源が供給されると前面のパワーLEDが橙色に点灯します。

また、プラグコネクタには抜け止めのためのロック機構がついています。
取り外す場合には、プラグ部分を下方向にスライドさせながら抜いてください。



◆PC電源スイッチ: PC-POWER SW

PC電源を投入します。TVのみをご使用の場合は、本スイッチをONにする必要はありません。
PCをご使用の場合は本スイッチとフロントスイッチのパワーボタンをONにしてください。

◆ヘッドホン出力インターフェイス: PHON OUT

ヘッドホン出力用のコネクタを備えています。
PCモードでは、ヘッドホンを抜いた場合自動的に消音モードになります。内蔵スピーカーを使用する場合には、リモコンの消音ボタンから消音モードを解除してください。

◆フロントスイッチ: FRONT SW

フロント部右下にTVパワーボタン、入力切替ボタン、メニュー表示ボタン、ボリューム調整ボタン、チャンネル選択ボタンを備えています。

フロントスイッチは全てリモコンボタンに対応しています。

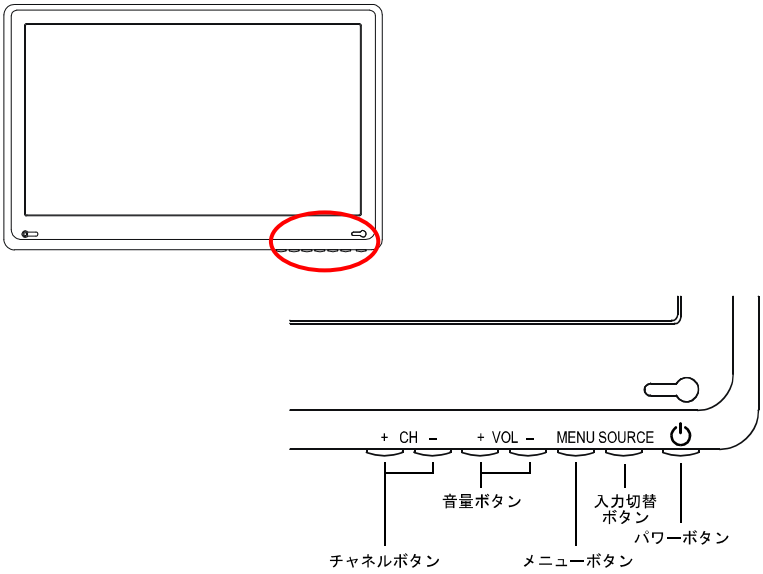


表4.3　本体/リモコンボタン対応表

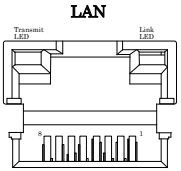
フロントスイッチ	リモコン	機能
パワーボタン	電源	ディスプレイ電源です。 TVまたはPCを利用する場合に電源を投入します。
SOURCE	入力切替	TV/PC/ビデオ入力を切り替えます。
MENU	メニュー	OSDメニュー画面を表示します。
VOL＋/－	音量（＋/－）　：TV/PC操作時 方向キー（▲▼）　：OSDメニュー操作時	TVの音量操作やOSDメニュー画面操作を行います。
CH＋/－	チャンネル（＋/－）：TV/PC操作時 方向キー（◀▶）　：OSDメニュー操作時	TVのチャンネル操作やOSDメニュー画面操作を行います。

◆ギガビットイーサネット:LAN

ギガビットイーサネットを1ポート装備しています。

・ネットワーク形態　　：1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
・伝送速度　　：1000M/100M/10M bps
・ネットワーク経路長最大　　：100m/セグメント
・コントローラ　　：Realtek RTL8111DL

表4.4　ファーストイーサネットコネクタ



ピン番号	Function	
	100BASE-TX	1000BASE-T
1	TX+	TRD+(0)
2	TX-	TRD-(0)
3	RX+	TRD+(1)
4	N.C.	TRD+(2)
5	N.C.	TRD-(2)
6	RX-	TRD-(1)
7	N.C.	TRD+(3)
8	N.C.	TRD-(3)

ネットワークの状態表示用LED

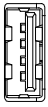
右LED: 動作LED
　　動作時: 橙色点滅

左LED: リンクLED
　　10M/100M: 緑色、1000M: 橙色

◆USBポート: USB

USB 2.0のインターフェイスを6ポート装備しています。

表4.5　USBコネクタ



ピン番号	信号名
1	USB_VCC
2	USB-
3	USB+
4	USB_GND

◆シリアルポートインターフェイス:SERIAL A - B

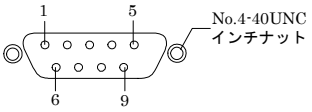
■SERIAL A,B(RS-232Cポート)

ボーレート115,200bps(Max.)、送信専用データバッファ16byte、受信専用データバッファ16byteのRS-232C準拠のシリアルポートを2ポート備えています。各ポートは、独立にBIOSセットアップ(第5章参照)によってI/Oアドレス、割り込みおよび未使用を設定できます(他のデバイスと同一のI/Oアドレス、割り込みは設定できません)。
I/Oアドレスの詳細とレジスタ機能については、第１０章 付録　I/Oポートアドレスを参照ください。

表4.6　SERIAL A, B I/Oアドレス、割り込み

SERIAL	I/Oアドレス	割り込み
1	3F8h - 3FFh	IRQ 4
2	2F8h - 2FFh	IRQ 3

表4.7　シリアルポートコネクタ

本体使用コネクタ	9ピンD-SUB(オス)		
			
ピン番号	信号名	意味	方向
1	CD	キャリア検出	入力
2	RD	受信データ	入力
3	TD	送信データ	出力
4	DTR	データターミナルレディ	出力
5	GND	信号グラウンド	-----
6	DSR	データセットレディ	入力
7	RTS	送信要求	出力
8	CTS	送信可	入力
9	RI	被呼表示	入力

◆HDMI入力: HDMI IN

HDMI出力の外部機器を接続できます。

HDMIケーブルで本機のHDMI入力端子と外部映像機器のHDMI出力端子を接続します。

なお、HDMIケーブルは添付しておりませんので別途ご用意ください。

■入力の切り替え

フロントスイッチのSORCEボタン、またはリモコンの入力切替ボタンを押し、OSDメニューからHDMIを選択することで、HDMI入力画面に切り替えることができます。

◆コンポジット入力: COMPOSITE IN、AUDIO-IN

DVDビデオデッキやカメラ等の外部機器を接続できます。

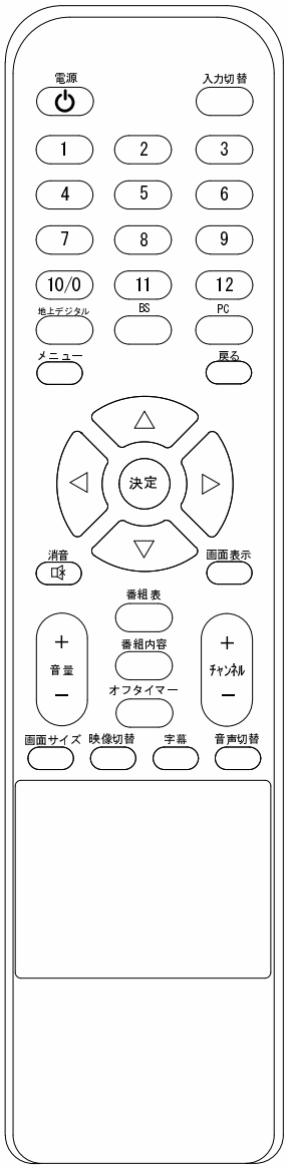
本機の映像入力端子および音声入力端子(左/右)を外部映像機器の映像出力端子、音声出力端子と接続します。

■入力の切り替え

フロントスイッチのSORCEボタン、またはリモコンの入力切替ボタンを押し、OSDメニューからビデオを選択することで、コンポジット入力画面に切り替えることができます。

第５章 リモコンでの操作

リモコンの各部の名称



名称	機能
電源	TV(モニタ)の電源ON/OFFを行います。
入力切替	入力選択画面を右上に表示します。 選択画面から、方向キーにて入力を選択し切り替えます。 BS/CSを選択する場合には、”地上D/BS/CS”が選択されている状態で方向キー▶を操作することにより切り替わります。
数字キー(1～12)	チャンネルの選局を行います。
地上デジタル	地上デジタル放送に切り替えます。
BS	BS放送に切り替えます。
PC	PCに切り替えます。
メニュー	OSDメニュー画面を表示します。
方向キー(▲▼◀▶)	OSDメニューなどで項目の選択、決定等を行います。
決定	
戻る	
消音	消音モードのON/OFFを切り替えます。 イヤホンを接続している場合には消音モードにはできません。
画面表示	画面上部にチャンネル情報を表示します。
チャンネル(+/−)	チャンネルを切り替えます。
音量(+/−)	音量を調整します。
番組表	番組表を表示します。
番組内容	番組内容を表示します。
オフタイマー	オフタイマーを設定します。 押すたびに30分から120分まで30分間隔で切り替わります。
画面サイズ	画面サイズを切り替えます。
映像切替	映像モードを切り替えます。
字幕	字幕のON/OFFを切り替えます。
音声切替	主音声/副音声を切り替えます。ボタンを押すごとに、主音声、副音声、主/副音声の順に切り替わります。

第６章 各種設定、画面調整

OSDメニューから各種設定、調整を行います。

OSDメニューは本体のフロントスイッチ、またはリモコンを使用して操作できます。

OSDメインメニュー

リモコンまたはフロントスイッチのメニューボタンを押すと、OSDメニューが表示されます。

フロントスイッチのCH＋/－ボタン、またはリモコンの方向キー（▲▼）を押すことでサブメニューを選択し、VOL＋ボタン、方向キー（▶）サブメニューに入ります。

再度メニューボタンを押すことで、サブメニュー、OSDメニューを終了します。

メニュー画面は英語表示に初期設定されています。日本語で表示する場合には、その他の設定メニューの表示言語より変更してください。

◆画面設定

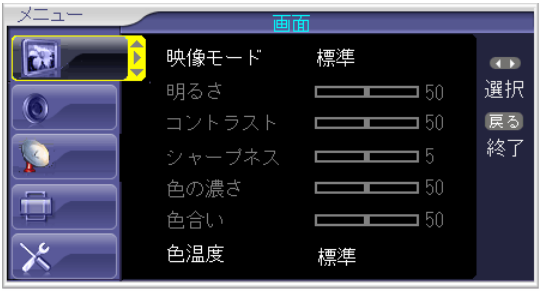


図6.1　画面設定メニュー

映像モード　：プリセットされた映像モードを切り替えます。
映像モードは標準/強調/ソフト/明るい/ユーザーから選択できます。ユーザーを選択した場合、各種設定を個別に設定可能です。
モードの切り替えについてはリモコンの映像切替ボタンからも設定可能です。

明るさ　：明るさを調節します。

コントラスト：明暗の差を調節します。

シャープネス：輪郭を調節します。PCモードでは設定できません。

色の濃さ　：色の濃さを調節します。PCモードでは設定できません。

色合い　：色合いを調整します。PCモードでは設定できません。

色温度　：色温度を調整します。標準/暖色/寒色から選択できます。

◆音声設定

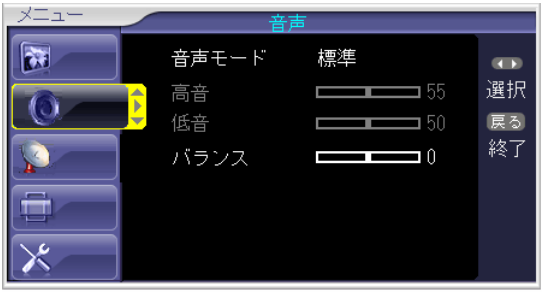


図6.2　音声設定メニュー

音声モード　：音声モードを切り替えます。
音楽/映画/音声/ユーザーから選択可能です。ユーザーを選択した場合、高音/低音を個別に設定可能です。

バランス　：左右のスピーカーの音量バランスを設定します。

◆デジタル設定

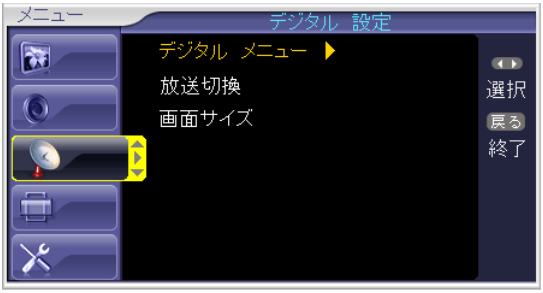


図6.3　デジタル設定メニュー

この設定はTV/ビデオ入力モード時のみ設定可能です。

デジタルメニュー　：　リモコンやチャンネルの初期設定など行います。詳細はp.36 「デジタルメニュー」を参照してください。

放送切替　：　地上デジタル/BS/CS放送の切り替えを行います。

画面サイズ　：　画面サイズを切り替えます。ノーマル/ズーム/フルを選択可能です。

◆PC設定

図6.4　PC設定メニュー

この設定はPCモード時のみ設定可能です。

自動調整　　：正しく表示できていない場合に選択してください。
水平位置　　：水平方向の位置を調整します。
垂直位置　　：垂直方向の位置を調整します。
フェーズ　　：画面の一部がにじむ場合やちらつく場合に調整します。
クロック　　：画面の水平方向サイズを変更できます。

◆その他の設定

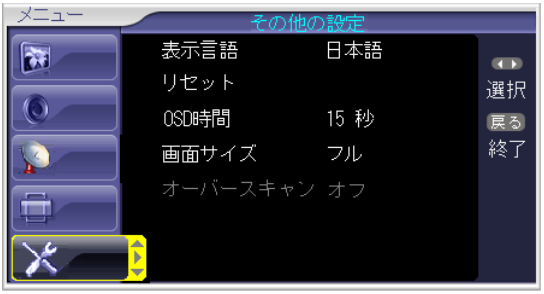


図6.5　その他の設定メニュー

表示言語　　：OSDメニューの言語を選択します。日本語/英語を選択可能です。
リセット　　：OSDメニューの設定を初期値に戻します。
OSD時間　　：OSDメニューの表示時間を選択します。
画面サイズ　　：表示画面をフル/4:3/ズーム表示に切り替えることができます。
　　PCモード時は選択できません。

デジタルメニュー

デジタルメニューでは初期設定や視聴設定等を行います。

◆TV機能の初期設定

地上デジタル放送の初期設定を行います。

最初に、B-CASカードが挿入されていること、およびアンテナが接続されていることを確認してください。

■チャンネル設定

(1) OSDメニューのデジタル設定からデジタルメニューを選択します。

(2) 設定メニューが表示されたら初期設定を選択します。

図6.6 設定メニュー

(3) 初期設定メニューからチャンネル設定を選択します。

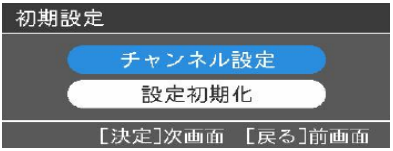


図6.7 初期設定メニュー

(4) チャンネル設定メニューから地デジを選択します。

図6.8 チャンネル設定メニュー

(5) 地デジ設定メニューからチャンネルスキャンを選択します。

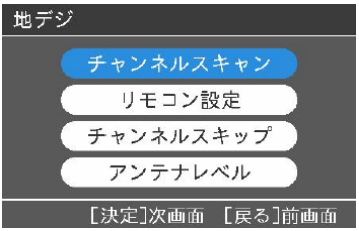


図6.9 地デジ設定メニュー

(6) 地デジスキャンメニューから初期スキャンを実行します。

図6.10 地デジ設定メニュー

(7) 初期スキャンが完了すると、見つかったチャンネルを表示します。

図6.11 チャンネルスキャン表示

■リモコンのチャンネル設定

チャンネルスキャン終了後、リモコンの数字キーに自動的にチャンネルが割り当てられます。
設定を変更したい場合にはリモコンチャンネル設定を行ってください。

(1) 地デジ設定メニューからリモコン設定を選択します。

図6.12 地デジ設定メニュー

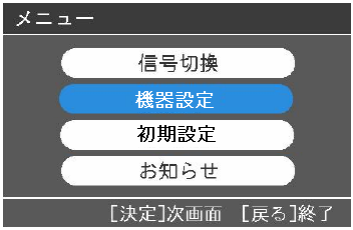
(2) 地デジリモコン設定画面が表示されたら、割り当てを変更したい番号をCH＋/－または ▲▼で選択し、VOL＋/－または◀▶で割り当てるチャンネルを決定します。

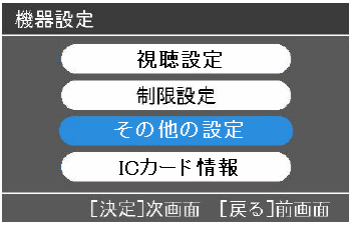
図6.13 地デジリモコン設定画面

◆BS/CSアンテナ電源設定

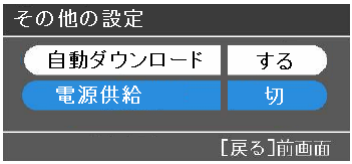
BS/CSアンテナを直接接続している場合など、アンテナへの電源供給が必要な場合は下記の通り設定してください。

(1) デジタルメニューより機器設定を選択し、その他の設定を選択します。





(2) 電源供給を”入”に設定します。



⚠ 注意

本機以外の外部映像機器等を通して接続されている場合には、それらの機器から電源が供給されるようにしてください。

第７章 タッチパネル

本製品は、キーボード/マウスレスを可能にするタッチパネルを装備しています。
タッチパネルはPCモード時にのみ使用でき、TV/ビデオモードの場合には使用できません。

タッチパネル設定

タッチパネルの設定は専用ユーティリティを使用して設定できます。

ユーティリティは下記いずれかの方法で起動できます。

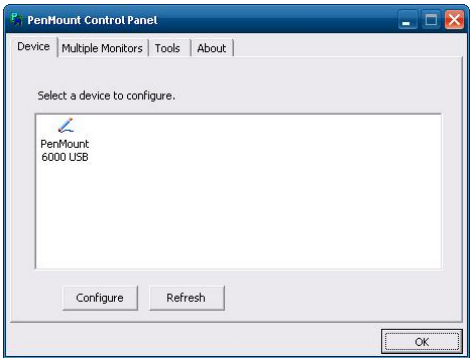
(1) Windowsスタートメニューより、「すべてのプログラム」→「PenMount Windows Universal 」→「Driver」→「Utility」→「PenMount Control Panel」より起動する。

(2) タスクトレイのアイコンをクリックし、ポップアップメニューから「Control Panel」を選択する。

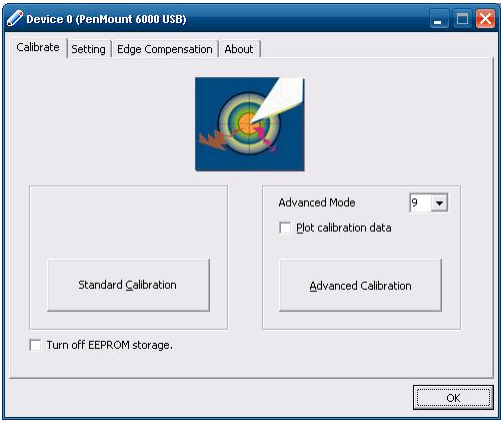
◆キャリブレーション

アナログタッチパネルの特性として、周囲環境(温湿度)の変化、経時変化により抵抗値が変化し、検出位置がずれてくる場合がありますので、このような時はタッチパネルのキャリブレーションを実行し、タッチ位置の補正を行ってください。

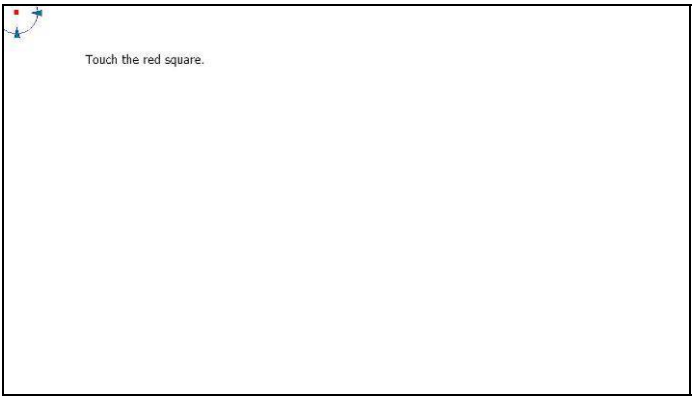
(1) ユーティリティが起動したら、PenMount 6000 USBを選択し、Configureボタンを押します。



(2) “Standard Calicration”または”Advanced Calibration”ボタンを押します。
“Standard Calicration”でタッチ位置のズレが解消されない場合には”Advanced Calibration”にて補正を行ってください。



(3) 全画面にキャリブレーション画面が表示されますので、指示されたポイントをタップし、“Lift off to proceed"と表示されたらリリースしてください。ポイントが移動しますので、同様に全ての点をタップしてください。

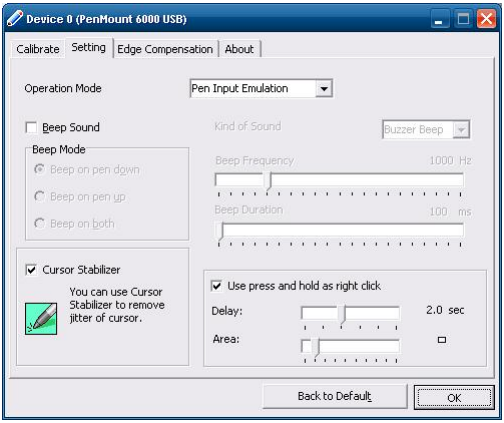


⚠ 注意

先端が尖ったもので画面をタッチしないでください。タッチパネルを傷つけたり、故障の原因となる場合があります。

◆その他の設定

Settingタブから動作モードやビープ音などの設定が可能です。



・ Operation Mode

動作モードを設定します。

Pen Input Emulation	Windows Vistaのペン入力操作機能をエミュレートします。
Mouse Emulation	通常のマウスと同様にクリック動作、ドラッグ動作が発生します。
Click on Touch	タップ時にクリック動作が発生します。ドラッグはできません。
Click on Release	リリース時にクリック動作が発生します。

・ Beep Sound

ビープ音の有無を設定します。

・ Beep Mode

ビープ音のタイミングを設定します。

Beep on pen down	タップ時にビープ音を鳴らします。
Beep on pen up	リリース時にビープ音を鳴らします。
Beep on both	タップ/リリース時の両方でビープ音を鳴らします。

・ Kind of Sound

ビープ音の種類を設定します。Buzzer Beepの設定でお使いください。
ビープ音の周波数と長さが設定可能です。

・ Cursor Stabilizer

カーソルの揺れを補正します。
ONにてご使用ください。

・ ダブルクリック設定

“Use press and hold as right click”にチェックを入れると、同じ座標をタップし続けることによりマウスの右クリックと見なされます。
“Delay”のスライドバーより右クリックと見なされるまでのタップ時間を設定できます。
“Area”スライドバーより同じ座標と見なされる範囲を設定します。

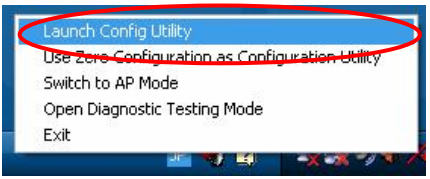
第８章 無線LANの設定

無線LANをご利用になる場合には、専用ユーティリティにて設定を行い接続してください。

ユーティリティは下記いずれかの方法で起動できます。

(1) Windowsスタートメニューより、「すべてのプログラム」→「Ralink Wireless」→「Ralink Wireless Utility」より起動する。

(2) タスクトレイのアイコンをクリックし、ポップアップメニューから「Launch Config Utility」を選択する。



◆接続状態の確認

ユーティリティを起動すると、ネットワークの状態を示す画面が表示されます。
周辺のアクセスポイントを検索し、一覧を表示します。接続したいアクセスポイントをリストから選択し、Connectボタンを押すことで接続されます。

また、ユーティリティの▼をクリックすることで、接続したネットワークの状態を確認できます。

Status	接続先のSSIDとMACアドレスを表示します。
Channel	使用チャネルと周波数を表示します。
Authentication	認証タイプを表示します。
Encryption	使用している暗号化方式を表示します。
Network Type	使用している通信方式を表示します。
IP Address	IPアドレスを表示します。
Sub Mask	サブネットマスクを表示します。
Default Gateway	デフォルトゲートウェイを表示します。

第９章 BIOSセットアップ

概要

本章では、FLASH ROM BIOSに組み込まれているAward社のセットアッププログラムについて説明します。セットアッププログラムを用いて、システムの基本設定を変更できます。この設定情報はバッテリバックアップされたRAMに保存されるため、コンピュータの電源をOFFにした後もセットアップ情報は保持されます。

以下では、セットアップを用いたシステム構成の手順について説明します。

◆セットアップの開始

コンピュータの電源を入れると、Award BIOSが直ちに開始されます。BIOSは、CMOS RAMに保存されているシステム情報を読み出し、システムの確認と設定プロセスを開始します。このプロセスが完了すると、BIOSはディスク上のオペレーティングシステムを検索して起動し、オペレーティングシステムに一切の制御を引き渡します。

BIOSによる制御が有効になっている間、以下の2通りの方法でセットアッププログラムを開始できます。

- システムに電源を入れた直後、<Del >を押します
- POST(power On Self-Test)中、画面の最下部に“Press DEL to enter SETUP”というメッセージが表示された時点で<Del>キーを押します。

  Press DEL to enter SETUP.

<Del>キーを押す前に上のメッセージが消えてしまった場合、セットアップにアクセスするには、コンピュータの電源をOFFにした後ONにする必要があります。USB Keyboard SupportがEnabledに設定されている場合<Ctrl>、<Alt>、<Delete>キーを同時に押してリスタートすることもできます。キーを押すタイミングを誤ると、システムはブートされず、次の操作を促すエラーメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, DEL to enter SETUP

◆セットアップの操作

通常、矢印キーを用いて項目間を移動し、<Enter>を押して選択します。項目値を変更するにはPageUpおよびPageDownキーを使用します。<F1>を押すとヘルプが表示され、<Esc>を押すとセットアップが終了します。セットアッププログラム操作のキーボード対応表を以下に示します。

表9.1　セットアップの操作

キー	機能
上矢印	前の項目に移動する
下矢印	次の項目に移動する
左矢印	左の項目に移動する(メニューバー)
右矢印	右の項目に移動する(メニューバー)
ESC	メインメニュー：変更を保存せずに終了します。 サブメニュー：現在のページを終了し、次レベルのメニューを表示します。
Move Enter	選択した項目に移動します。
PgUp キー	数値を増分または変更します。
PgDn キー	数値を減分または変更します。
＋キー	数値を増分または変更します。
－キー	数値を減分または変更します。
ESCキー	メインメニュー：CMOSへ変更を保存せずに終了します。Page SetupメニューおよびOption Page Setupメニュー：現在のページを終了し、メインメニューに戻ります。
F1キー	キー機能のヘルプ画面を起動します。
F5キー	CMOSから前の設定をロードします。
F6キー	BIOSデフォルトテーブルからフェールセーフデフォルトをロードします。
F7キー	BIOSデフォルトテーブルから最適デフォルトをロードします。
F10キー	すべてのCMOS変更を保存し、終了します。

◆Getting Help

F1を押すと、表示されている項目に関する適切なキーまたは選択肢が、小さなポップアップウィンドウに表示されます。Helpウィンドウを終了するには、<Esc>またはF1キーを再び押します。

◆In Case of Problems

セットアップでシステムを変更してそれを保存した後にコンピュータをブートできなくなった場合は、Award BIOSでCMOS設定をオーバライドしてシステムをデフォルトに戻すことができます。

システムに対しては､完全に理解している設定以外は変更しないのが最も安全です｡したがって、チップセットのデフォルト設定は一切変更しないことを強くお勧めします。これらのデフォルトは、Awardとシステムメーカの両者がパフォーマンスと信頼性を最大限保証するために十分に考慮して選択した値です。チップセットの設定をわずかに変更しても、オーバライド機能を使用せざるを得ないような場合が生じる可能性があります。

◆A Final Note About Setup

本章の情報は予告なく変更することがあります。

メインメニュー

Award BIOS CMOS Setupユーティリティを開始すると、メインメニューが画面表示されます。メインメニューでは、複数のセットアップ機能からの選択、および2つの終了オプションを使用できます。項目を選択するには矢印キーを使用します。<Enter>を押すと、選択が確定されサブメニューが表示されます。
表示されている各項目に関する簡単な説明が画面下部に表示されます。

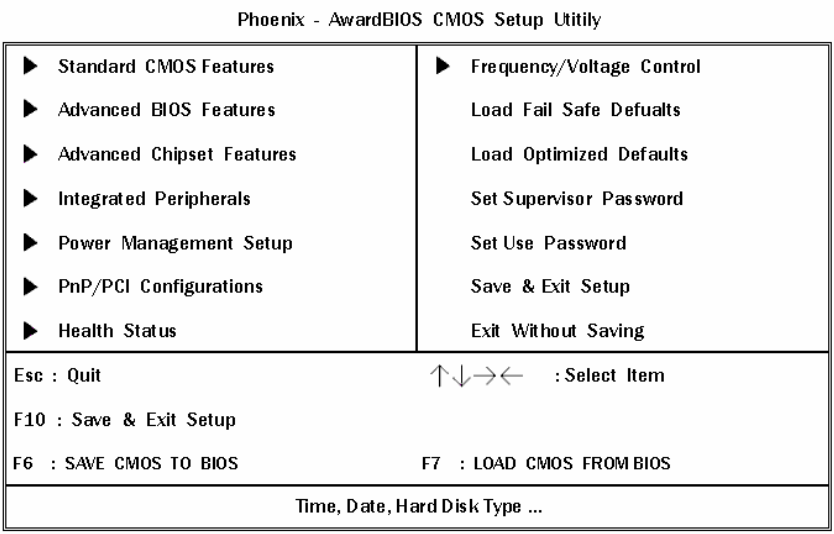


図9.1　Main Manu

◆設定項目

メインメニューには、以下のような設定カテゴリがあります。一部のシステムでは表示されない項目があります。

■Standard CMOS Features
このメニューを用いて、システムの基本構成を設定します。

■Advanced BIOS Features
このメニューを用いて、ご使用のシステムに設定可能な詳細機能を設定します。

■Advanced Chipset Features
このメニューを用いて、チップセットレジスタの値を変更し、システム性能を最適化します。

■Integrated Peripherals
このメニューを用いて、統合されている周辺機器の設定を指定します。

■Power Management Setup
このメニューを用いて、電源管理に関する設定を指定します。

■PnP / PCI Configuration
この項目は、ご使用のシステムでPnP / PCIがサポートされている場合に表示されます。

■Load Fail-Safe Defaults
このメニューを用いて、システムを運用するための最小限の/安定した性能を実現するBIOSデフォルト値をロードします。

■Load Optimized Defaults
このメニューを用いて、最適なシステム性能を実現するための工場設定であるBIOSデフォルト値をロードします。最適な性能に合わせたAwardによるカスタムBIOSの設計は、必要に応じて工場でデフォルト値が変更される場合があります。

■Supervisor / User Password
このメニューを用いて、ユーザーおよび管理者パスワードを設定します。

■Save & Exit Setup
CMOS値の変更をCMOSに保存し、セットアップを終了します。

■Exit Without Save
新たに設定したCMOS値をすべて破棄して、セットアップを終了します。

Standard CMOS Setup

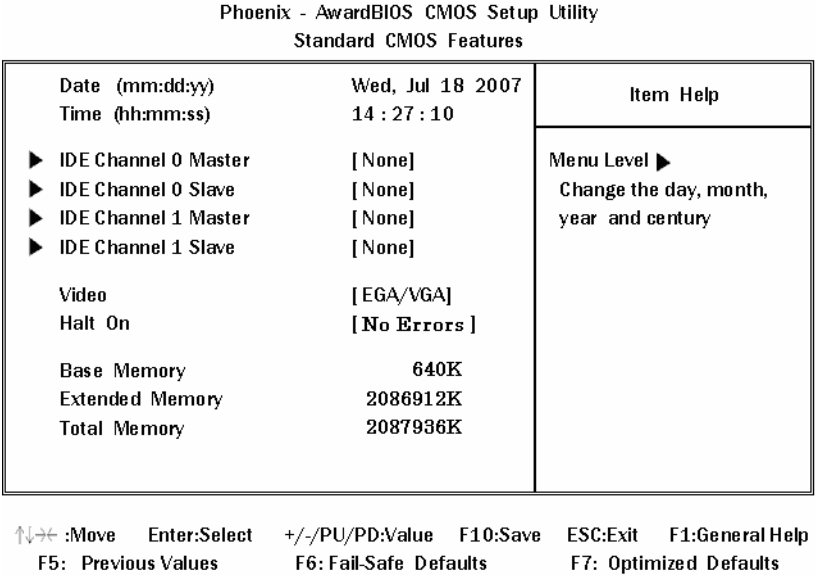

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Standard CMOS Features
Date (mm:dd:yy) Wed, Jul 18 2007
Time (hh:mm:ss) 14 : 27 : 10
IDE Channel 0 Master [None]
IDE Channel 0 Slave [None]
IDE Channel 1 Master [None]
IDE Channel 1 Slave [None]
Video [EGA/VGA]
Halt On [No Errors]
Base Memory 640K
Extended Memory 2086912K
Total Memory 2087936K
Item Help
Menu Level ▶
Change the day, month, year and century
↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図9.2 Standard CMOS Setup

Standard CMOS Featuresメニューでは、10個のカテゴリに項目が分類されています。各カテゴリで、ゼロ、1つまたは複数の項目を設定します。矢印キーで項目をハイライトし、<PgUp>または<PgDn>キーを用いて各項目の値を選択します。

メインメニューの選択肢

メインメニューで選択できる項目を下表に示します。

表9.2　メインメニューの選択肢

項目	オプション	説明
Date	Month DD YYYY	システムのカレンダを設定します。曜日は自動的に設定されます。
Time	HH : MM : SS	システムの時刻を設定します。
IDE Channel 0 Master	サブメニューに設定があります。	<Enter>キー入力で詳細設定のサブメニューが表示されます。
IDE Channel 0 Slave	サブメニューに設定があります。	<Enter>キー入力で詳細設定のサブメニューが表示されます。
IDE Channel 1 Master	サブメニューに設定があります。	<Enter>キー入力で詳細設定のサブメニューが表示されます。
IDE Channel 1 Slave	サブメニューに設定があります。	<Enter>キー入力で詳細設定のサブメニューが表示されます。
Video	EGA/VGA CGA 40 CGA 80 MONO	標準のビデオデバイスを選択します。 通常EGA/VGAでご使用ください。
Halt On	All Errors No Errors All, but Keyboard	POSTプロセス時の停止項目を選択できます。
Base Memory	N/A	ブート時に認識したコンベンショナルメモリ容量を表示します。
Extended Memory	N/A	ブート時に認識した拡張メモリ容量を表示します。
Total Memory	N/A	すべてのメモリ容量を表示します。

◆IDEアダプタ

IDEアダプタは、CFカードを制御します。各CFカードの設定には、サブメニューを用います。

このメニューの操作や、メインメニューへの復帰には、キー入力を用います。
ハードディスクの設定項目は、下表に示します。

表9.3　IDE アダプタ

項目	オプション	説明
IDE HDD Auto-detection	Press Enter	<Enter>キー入力でCFカード自動認識を行います。 認識に成功するとメニュー内の項目が表示されます。
IDE Channel 0/1 Master/Slave	None Auto Manual	'Manual'を選択した場合は、この画面の残りのフィールドを設定できます。固定ディスクのタイプを選択します。"User Type"では、シリンダ数、ヘッド数などを選択できます。 注：PRECOMP=65535はNONEを意味します。
Access Mode	CHS LBA Large Auto	CFカードのアクセスモードを選択します。
Capacity	CFカードの容量が自動的に表示されます。	ディスクドライブ容量（概算値）。このサイズは、通常、ディスクチェックプログラムで与えられたフォーマット済みディスクのサイズよりやや大きめの値となります。
次のオプションは、"'IDE Channel 0/1 Master/Slave"項目が"Manual"かつ“Access Mode”が”CHS”に設定されている場合にのみ選択できます。		
Cylinder	Min = 0 Max = 65535	CFカードのシリンダ数をセットします。
Head	Min = 0 Max = 255	CFカードのヘッド数をセットします。
Precomp	Min = 0 Max = 65535	**** Warning: 65535を設定すると、CFカードがないことを意味します。
Landing zone	Min = 0 Max = 65535	****
Sector	Min = 0 Max = 255	トラックあたりのセクタ数を設定します。

Advanced BIOS Features Setup

ここでは、システムの基本操作を設定できます。システムのデフォルト速度や、ブートアップシーケンス、キーボード操作、シャドーイングおよびセキュリティに関する設定を行います。

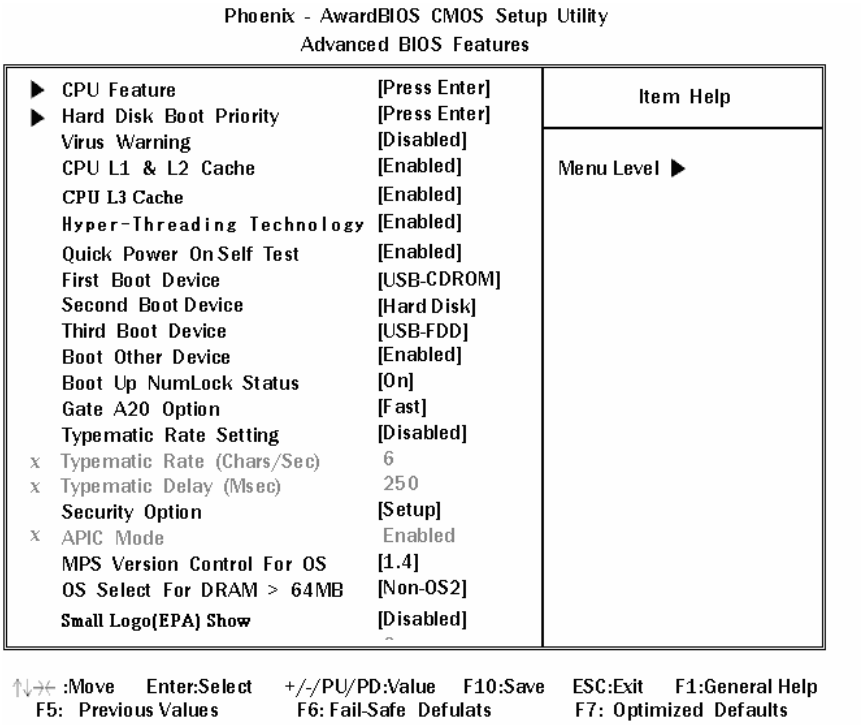

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Advanced BIOS Features
▶ CPU Feature [Press Enter]
▶ Hard Disk Boot Priority [Press Enter]
Virus Warning [Disabled]
CPU L1 & L2 Cache [Enabled]
CPU L3 Cache [Enabled]
Hyper-Threading Technology [Enabled]
Quick Power On Self Test [Enabled]
First Boot Device [USB-CDROM]
Second Boot Device [Hard Disk]
Third Boot Device [USB-FDD]
Boot Other Device [Enabled]
Boot Up NumLock Status [On]
Gate A20 Option [Fast]
Typematic Rate Setting [Disabled]
x Typematic Rate (Chars/Sec) 6
x Typematic Delay (Msec) 250
Security Option [Setup]
x APIC Mode Enabled
MPS Version Control For OS [1.4]
OS Select For DRAM > 64MB [Non-OS2]
Small Logo(EPA) Show [Disabled]
Item Help
Menu Level ▶
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defulats F7: Optimized Defaults

図9.3 Advanced BIOS Features Setup

CPU Feature

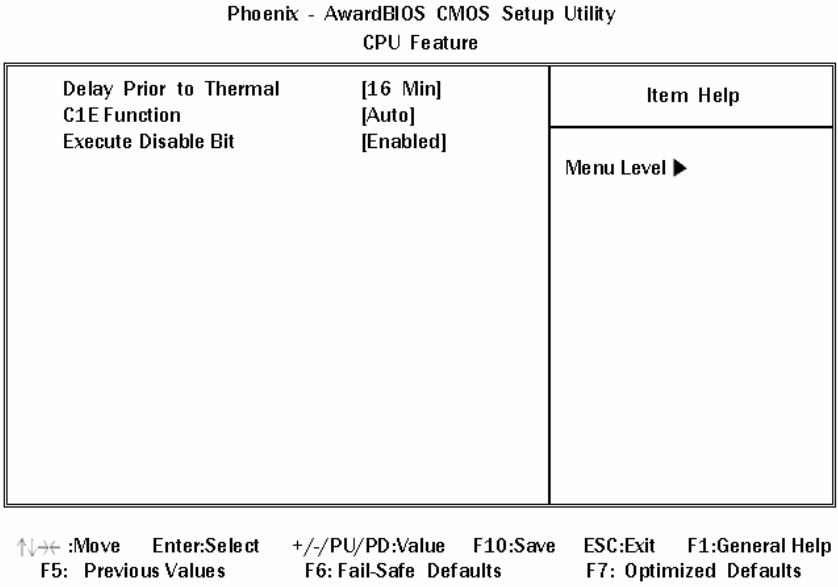
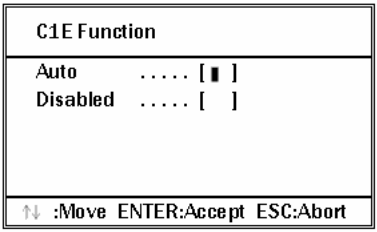
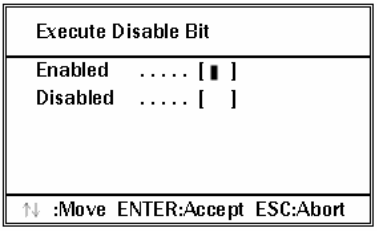

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
CPU Feature
Delay Prior to Thermal [16 Min]
C1E Function [Auto]
Execute Disable Bit [Enabled]
Item Help
Menu Level ▶
↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図9.4　CPU Feature

<Enter>を押し、CPU Feature関連の設定を行ってください。

表9.4　CPU Featuresセレクト

説明	選択肢
Delay Prior to Thermal CPU発熱抑制機能の遅延タイマの間隔を選択します。	Delay Prior to Thermal 4 Min . . . . . [ ] 8 Min . . . . . [ ] 16 Min . . . . . [▮] 32 Min . . . . . [ ] ↑↓ :Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
C1E Function CPU C1E機能を選択します。	
Execute Disable Bit Disabledにした場合は、XD機能フラグを強制的に0とします。	

Hard Disk Boot Priority

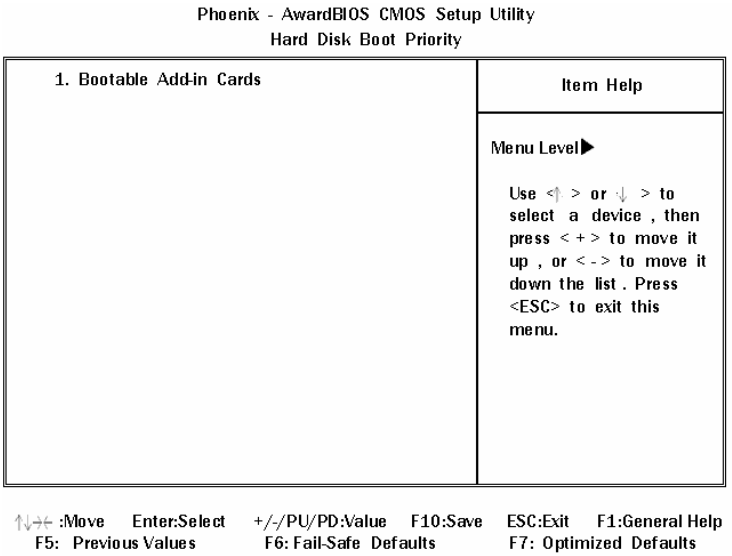

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Hard Disk Boot Priority
1. Bootable Add-in Cards
Item Help
Menu Level▶
Use < > or < > to select a device , then press < + > to move it up , or < - > to move it down the list . Press <ESC> to exit this menu.
:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図9.5　Hard Disk Boot Priority

「Bootable add-in Cards」は、接続されたハードディスクとは別の外部デバイスを参照する選択肢です。

◆Virus Warning

この機能を有効にしておくと、プログラム(特にウィルス)によってハードディスクドライブのブートセクタやパーティションテーブルへの書き込みが試行された場合に、警告メッセージが表示されます。メッセージが表示された場合は、アンチウィルスプログラムを実行する必要があります。本機能が保護するのはブートセクタのみです。ハードディスク全体は保護されないため、注意してください。

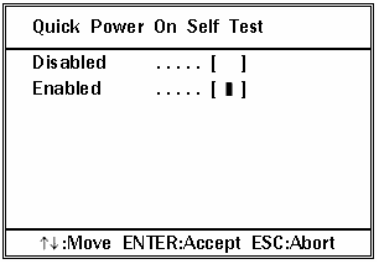
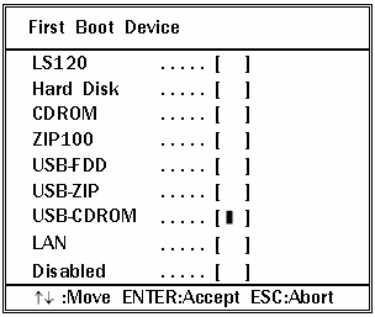
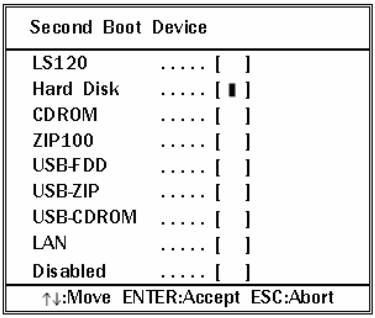
⚠ 注意

ブートセクタテーブルにアクセスする多くの診断プログラムによって、ウィルス警告メッセージがトリガされる場合があります。このようなプログラムを実行する場合は、その前にウィルス警告を無効にしてください。

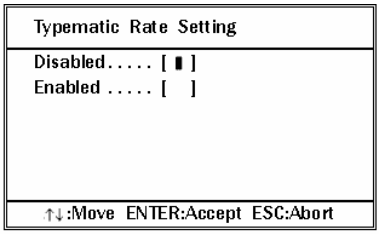
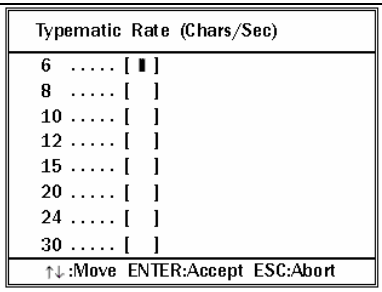
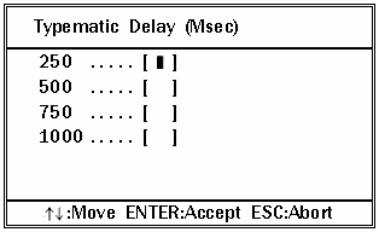
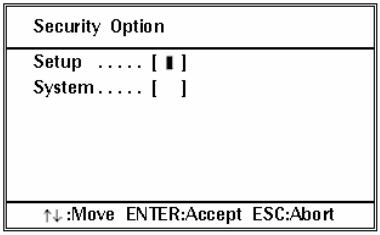
Enabled	システムの起動時にアクティブ化され、ブートセクタまたはハードディスクのパーティションテーブルへの侵入が試行されると、警告メッセージを表示します。
Disabled	ブートセクタまたはハードディスクのパーティションテーブルへの侵入が試行されても、警告メッセージは表示されません。

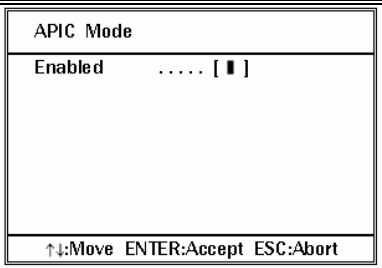
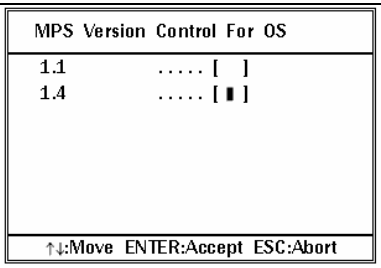
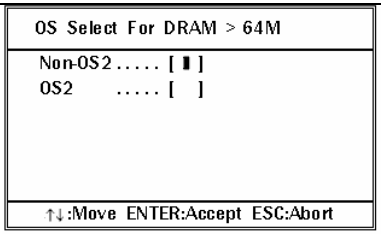
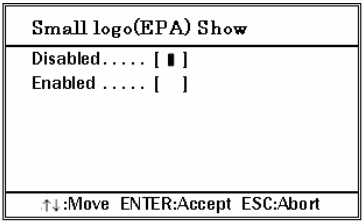
表9.5　Advance BIOS Featureセレクト

説明	選択肢
CPU L1 & L2 Cache キャッシュ機能を有効(メモリアクセスを高速化)または無効にすることができます。	CPU L1 & L2 Cache Disabled ..... [ ] Enabled ..... [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Hyper-Threading Technology Hyper-Threading機能を有効または無効にすることができます。	Hyper-Threading Technology Disabled ..... [ ] Enabled ..... [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
Quick Power On Self Test Enabledを選択してPOST(電源投入時のセルフテスト)実行に必要な時間を短縮することができます。クイックPOSTではステップをいくつか飛ばして処理を行うので、通常は、この機能を無効にすることをお勧めします。作業中にデータを失うことがないよう、POST中のトラブルを特定するようにしてください。	
First Boot Device BIOSは、この項目で選択した順序で、デバイスからのオペレーティングシステムのロードを試行します。	
Second Boot Device BIOSは、この項目で選択した順序で、デバイスからのオペレーティングシステムのロードを試行します。	

説明	選択肢
Third Boot Device BIOSは、この項目で選択した順序で、デバイスからのオペレーティングシステムのロードを試行します。	Third Boot Device LS120 ..... [ ] Hard Disk ..... [ ] CDROM ..... [ ] ZIP100 ..... [ ] USB-FDD ..... [ ] USB-ZIP ..... [ ] USB-CDROM ..... [ ] LAN ..... [ ] Disabled ..... [ ] ↑↓ :Move ENTER:Accept ESC:Abort
Boot Other Device BIOSは、他のデバイスからのオペレーティングシステムのロードを試行します。	Boot Other Device Disabled ..... [ ] Enabled ..... [ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Boot Up NumLock Status ONまたはOFFに設定し、システム起動時のNumLockキーの状態を制御します。ONにすると、数字キーパッドを押した場合に、カーソルが移動せず、数字が入力されます。	Boot Up NumLock Status Off ..... [ ] On ..... [ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Gate A20 Option ゲートA20とは、1MBを超えるメモリ(拡張メモリ)のアドレス指定の方法を指します。Fastに設定すると、システムチップセットによりゲートA20が制御されます。 Normalに設定すると、キーボードコントローラのピンによってゲートA20が制御されます。OS/2およびWindowsの場合、ゲートA20をFastに設定することにより、システム速度が向上します。	Gate A20 Option Normal ..... [ ] Fast ..... [ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
Typematic Rate Setting Disabledにした場合は、以下の2項目(Typematic Rateおよび Typematic Delay)は無効です。キー入力の速度は、システムのキーボードコントローラによって決定されます。Enabledにすると、キー入力の速度設定と遅延設定を選択できます。	
Typematic Rate (Chars/Sec) キー入力の速度設定が有効になっている場合、キー入力速度(キーを押し続けた場合に連続的に入力される文字の入力速度)を設定できます。1秒あたりの文字数を6、8、10、12、15、20、24または30の中から選択できます。	
Typematic Delay (Msec) キー入力の速度設定が有効になっている場合、キー連続入力までの待ち時間間隔を設定できます。	
Security Option システムを起動するたびにパスワードの入力を要求するか、セットアップの開始時にのみ要求するかを選択します。パスワードがある場合は、システムを起動するたびにパスワードを要求するか、セットアップの開始時にのみ要求するかを選択します。 System: プロンプトに対して正しいパスワードを入力しない限り、システムは起動せず、セットアップへのアクセスも拒否されます。 Setup: システムは起動しますが、プロンプトに対して正しいパスワードを入力しない限り、セットアップへのアクセスが拒否されます。	
注: セキュリティ設定を無効にするには、メインメニューでPASSWORD SETTINGを選択します。このとき、パスワードの入力を促すメッセージが表示されますが、何も入力せず、<Enter>を押すと、セキュリティが無効になります。セキュリティを無効にすると、システムが起動し、セットアップへのアクセスも可能になります。	

説明	選択肢
APIC Mode APICとは、Advanced Programmable Interrupt Controller(高度プログラマブル割り込みコントローラ)を意味します。 注 : このアイテムが、唯一示されます。	
MPS Version Control For OS このオプションではOSにMPS(マルチプロセッサ仕様)を指定します。複数のPCIバス構成への対応や、将来の拡張性を向上させるため、MPSバージョン1.4 の場合、拡張型構成テーブルを追加します。	
OS Select For DRAM > 64M システム上で64MBを上回るRAMを用いてOS/2オペレーティングシステムを起動している場合にのみ、OS2を選択します。	
Small logo (EPA) Show システムがブートアップした際、モニタの右側にEPAロゴが表示されます。	

Advanced Chipset Features Setup

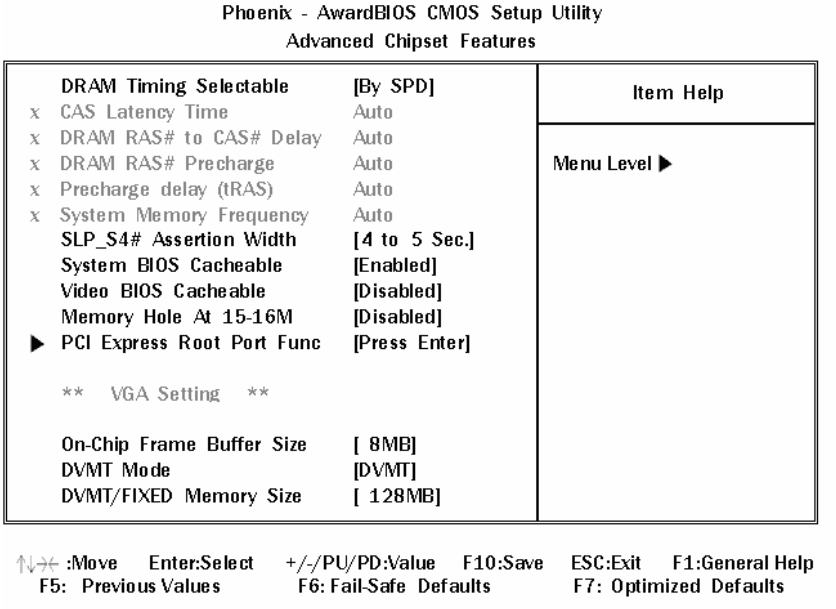
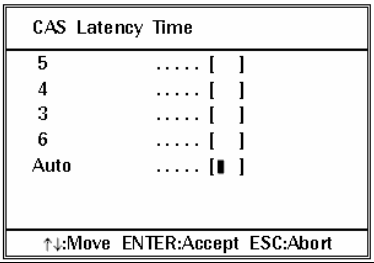
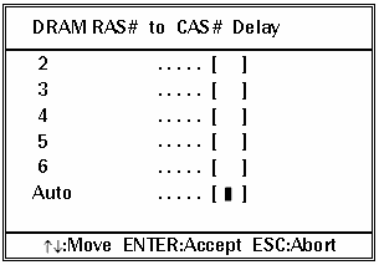
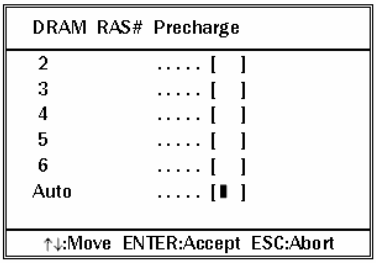
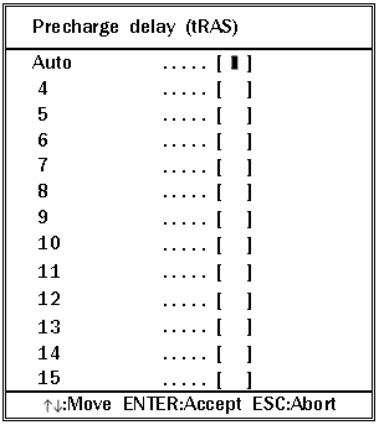

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Advanced Chipset Features
DRAM Timing Selectable [By SPD]
x CAS Latency Time Auto
x DRAM RAS# to CAS# Delay Auto
x DRAM RAS# Precharge Auto
x Precharge delay (tRAS) Auto
x System Memory Frequency Auto
SLP_S4# Assertion Width [4 to 5 Sec.]
System BIOS Cacheable [Enabled]
Video BIOS Cacheable [Disabled]
Memory Hole At 15-16M [Disabled]
▶ PCI Express Root Port Func [Press Enter]
** VGA Setting **
On-Chip Frame Buffer Size [8MB]
DVMT Mode [DVMT]
DVMT/FIXED Memory Size [128MB]
Item Help
Menu Level ▶
↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

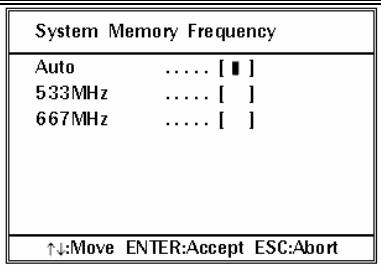
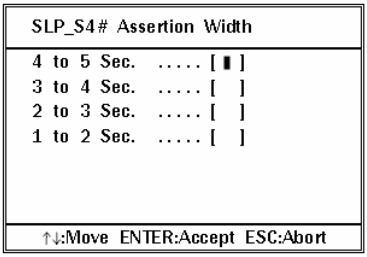
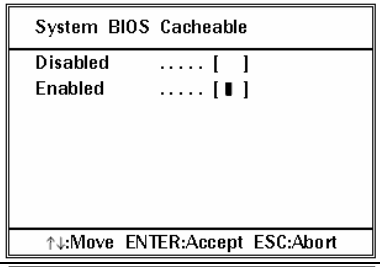
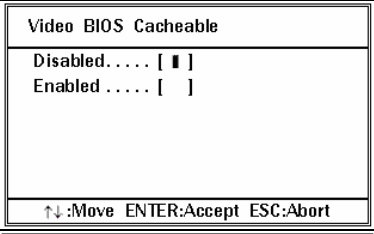
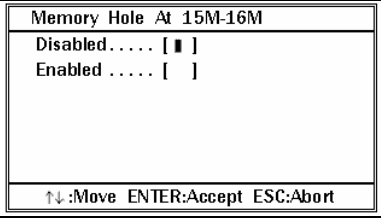
図9.6 Advanced Chipset Features Setup

ここでは、チップセット固有の機能に基づき、システムを設定します。チップセットは、バス速度を管理し、DRAMや外部キャッシュなどのシステムのメモリリソースへのアクセスを管理します。これらの項目は絶対に変更しないでください。デフォルト設定は、システムの最適な運用条件を提供するために決定されています。これらの項目は、システムの使用中にデータを損失した場合でない限り、変更しないでください。

表9.6 Advance Chipset Featureセレクタ

説明	選択肢
DRAM Timing Selectable この項目は、インストールされているメモリチップ(DRAM)の性能パラメータによって異なります。元のDRAMと異なる性能速度の新規メモリをインストールした場合でない限り、工場出荷時の値を変更しないでください。	DRAM Timing Selectable Manual ..... [ ] By SPD ..... [▮] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
CAS Latency Time 同期DRAMがインストールされている場合、CAS待ち時間のクロックサイクル数は、DRAMタイミングによって異なります。このフィールドのデフォルト値は、システム設計者によって設定されているため、変更しないでください。 3/4/5/6またはAutoのHCLKで、CAS待ち時間を選択できます。システムボードの設計者は、実装したDRAM、またはインストールしたCPUのD RAM実装仕様に基づいて、このフィールドに値を設定する必要があります	
DRAM RAS# to CAS# Delay この項目では、DRAMへの書き込み、読み出しまたは更新時に使用されるCASとRASストローブ信号の間のタイミング遅延を入力します。高速に設定すると性能が高速になり、低速に設定するとより安定した性能が得られます。このフィールドは、同期DRAMがシステムにインストールされている場合にのみ適用されます。	
DRAM RAS# Precharge プリチャージ時間とは、DRAMのリフレッシュまでにRASをチャージするのに要するサイクル数を指します。この時間が不十分な場合、更新が不完全になり、DRAMにデータを保持できなくなる場合があります。	
Precharge delay (tRAS) この項目では、再充電遅延時間を起動するDRAMクロック数を制御します。DRAMサイクル時間tRAS用のデフォルト設定は、”Auto”です。	

説明	選択肢
System Memory Frequency この項目ではメインメモリ周波数を設定します。	
SLP_S4# Assertion Width SLP_S4#のアサート幅が設定できます。 デフォルト設定は、4 - 5 Secです。	
System BIOS Cacheable Enabledを選択すると、システムBIOS ROMをF0000h - FFFFFhでキャッシュできるようになり、システム性能が向上します。ただし、プログラムによってこのメモリ領域に書き込みが行われると、システムエラーが発生する場合があります。	
Video BIOS Cacheable Enabledを選択すると、ビデオBIOS ROMをC0000h - C7FFFhでキャッシュできるようになり、ビデオ性能が向上します。ただし、プログラムによってこのメモリ領域に書き込みが行われると、システムエラーが発生する場合があります。	
Memory Hole At 15M-16M 性能を向上させるため、ISAカード用にメモリ空間が確保されています。このメモリは、16MB未満のメモリ空間にマッピングしなければなりません。	

PCI Express Root Port Function

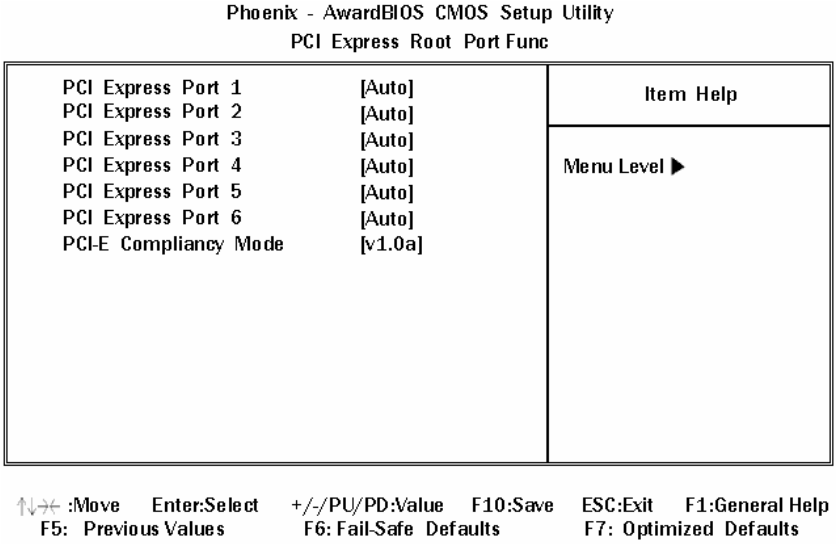

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
PCI Express Root Port Func
PCI Express Port 1 [Auto]
PCI Express Port 2 [Auto]
PCI Express Port 3 [Auto]
PCI Express Port 4 [Auto]
PCI Express Port 5 [Auto]
PCI Express Port 6 [Auto]
PCI-E Compliancy Mode [v1.0a]
Item Help
Menu Level ▶
↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図9.7 PCI Express Root Port Function

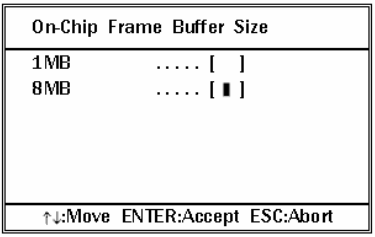
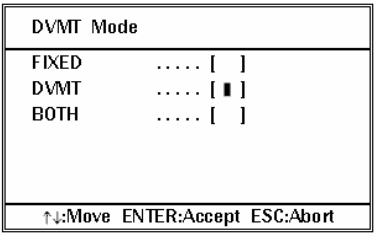
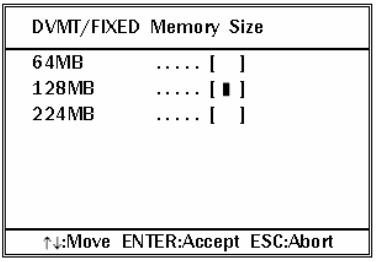
表9.7 PCI Express Root Port Functionセレクト

説明	選択肢
PCI Express Port 1/2/3/4/5/6 この項目では、PCI Expressポート1/2/3/4/5/6の有効化、無効化、自動設定が可能です。	PCI Express Port 1 Auto ..... [■] Enabled ..... [ ] Disabled ..... [ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
PCI-E Compliancy Mode この項目では、PCI Express準拠モードを設定できます。	PCI-E Compliancy Mode v1.0a ..... [■] v1.0 ..... [ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

VGA設定

On-Chip VGA設定とデフォルト設定におけるフィールドです。

表9.8　VGA設定セレクト

説明	選択肢
On-Chip Frame Buffer Size Enabledにすると、A000hからBFFFhまでの固定VGAフレームバッファとCPU-PCI間書き込みバッファが実装されます。	
DVMT Mode Dynamic Video Memory Technology (DVMT)モードの設定が可能です。	
DVMT/FIXED Memory Size Dynamic Video Memory Technology (DVMT)のメモリサイズが設定できます。	

Integrated Peripherals

ここでは、お使いのハードディスクおよびその他の統合された周辺機器の構成を設定します。最初の画面には、ユーザーが選択する3つのメイン項目が表示されます。いずれかの項目を選択すると、サブメニューが表示されます。詳細は以下のとおりです。

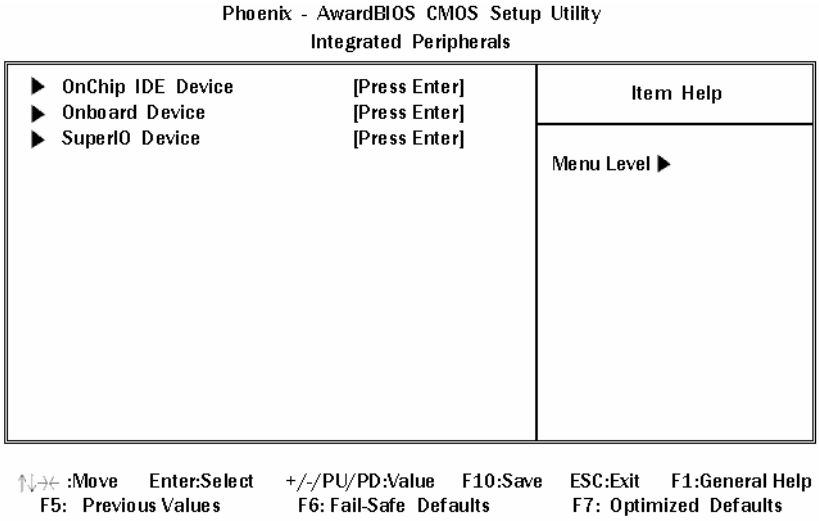


図9.8 Integrated Peripherals

OnChip IDE Device

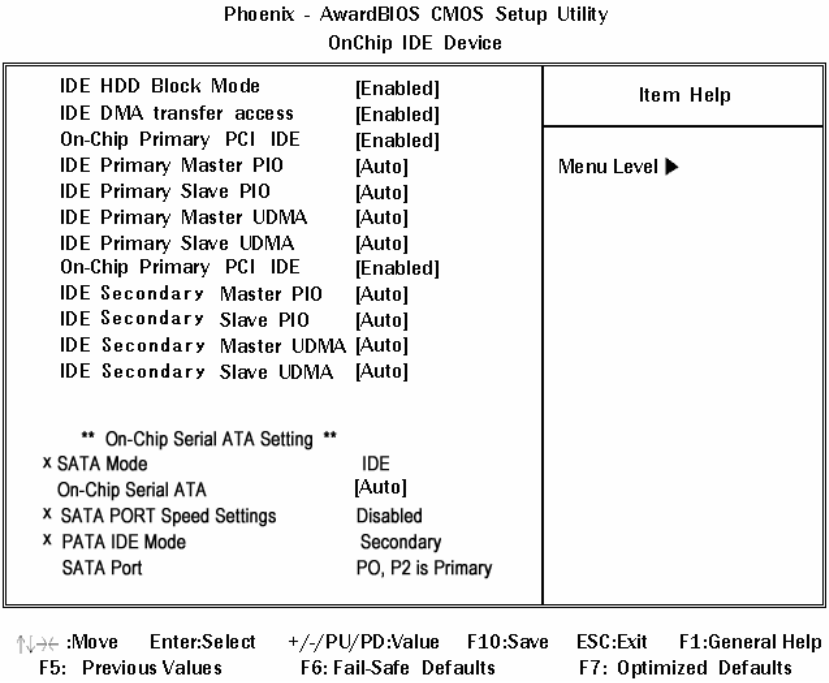
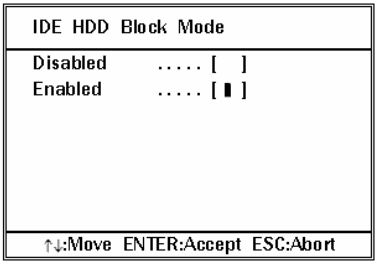
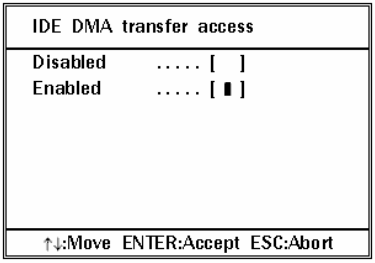
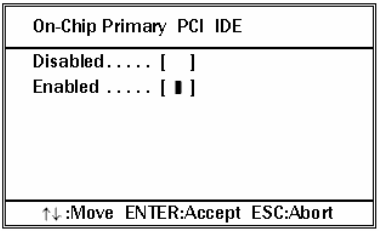

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
OnChip IDE Device
IDE HDD Block Mode [Enabled]
IDE DMA transfer access [Enabled]
On-Chip Primary PCI IDE [Enabled]
IDE Primary Master PIO [Auto]
IDE Primary Slave PIO [Auto]
IDE Primary Master UDMA [Auto]
IDE Primary Slave UDMA [Auto]
On-Chip Primary PCI IDE [Enabled]
IDE Secondary Master PIO [Auto]
IDE Secondary Slave PIO [Auto]
IDE Secondary Master UDMA [Auto]
IDE Secondary Slave UDMA [Auto]
** On-Chip Serial ATA Setting **
x SATA Mode IDE
On-Chip Serial ATA [Auto]
x SATA PORT Speed Settings Disabled
x PATA IDE Mode Secondary
SATA Port PO, P2 is Primary
Item Help
Menu Level ▶
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図9.9 On Chip IDE Device

表9.9 On Chip IDE Deviceセレクト

説明	選択肢
HDD Select CFカードのタイプを、Auto SelectまたはUDMA 33に設定できます。	HDD Select Auto Select ..... [▮] UDMA33 ..... [ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
IDE HDD Block Mode ブロックモードは、ブロック転送、マルチコマンド、またはマルチセクタ読み出し/書き込みとも呼ばれます。CFカードがブロックモードをサポートしている場合は、Enabledを選択すると、ドライブでサポート可能なセクタ別の最大ブロック読み出し/書き込み回数が自動検出されます。	
IDE DMA transfer access IDE DMA transfer accessを有効/無効にします。	
On-Chip Primary PCI IDE 内蔵ペリフェラルコントローラには、2つのIDEチャネルをサポートするIDEインターフェイスが含まれます。各チャネルを隔てて起動させるには、有効を選んでください。	

説明	選択肢
IDE Primary Master / Slave PIO 2つのIDE PIO (Programmed Input/Output)項目で、オンボードIDEインターフェイスがサポートする1つのIDEデバイスにおけるそれぞれのPIOモード(0-4)を設定します。Autoモードは、システムが最適モードを自動的に決定します。	IDE Primary Master PIO Auto ..... [■] Mode 0 ..... [ ] Mode 1 ..... [ ] Mode 2 ..... [ ] Mode 3 ..... [ ] Mode 4 ..... [ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort IDE Primary Slave PIO Auto ..... [■] Mode 0 ..... [ ] Mode 1 ..... [ ] Mode 2 ..... [ ] Mode 3 ..... [ ] Mode 4 ..... [ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
IDE Primary Master/Slave UDMA UDMA (Ultra DMA)とは、ATAコマンドとATAバスを用いて、DMAコマンドによる33 MB/秒の最大バースト速度でのデータ転送を可能にするDMAデータ転送プロトコルのことです。2つのIDE UDMAフィールドでAutoを選択した場合、各IDEデバイスの最大データ転送速度はシステムによって自動的に決定されます。	IDE Primary Master UDMA Disabled ..... [ ] Auto ..... [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort IDE Primary Slave UDMA Disabled ..... [ ] Auto ..... [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
On-Chip Secondary PCI IDE 内蔵ペリフェラルコントローラには、2つのIDEチャネルをサポートするIDEインターフェイスが含まれます。各チャネルを隔てて起動させるには、有効を選んでください。	On-Chip Secondary PCI IDE Disabled..... [ ] Enabled ..... [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
IDE Secondary Master / Slave PIO 2つのIDE PIO (Programmed Input/Output)項目で、オンボードIDEインターフェイスがサポートする1つのIDEデバイスにおけるそれぞれのPIOモード(0-4)を設定します。Autoモードは、システムが最適モードを自動的に決定します。	IDE Secondary Master PIO Auto .....[ ] Mode 0 .....[ ] Mode 1 .....[ ] Mode 2 .....[ ] Mode 3 .....[ ] Mode 4 .....[ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort IDE Secondary Slave PIO Auto .....[ ] Mode 0 .....[ ] Mode 1 .....[ ] Mode 2 .....[ ] Mode 3 .....[ ] Mode 4 .....[ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
IDE Secondary Master/Slave UDMA UDMA (Ultra DMA)とは、ATAコマンドとATAバスを用いて、DMAコマンドによる33 MB/秒の最大バースト速度でのデータ転送を可能にするDMAデータ転送プロトコルのことです。2つのIDE UDMAフィールドでAutoを選択した場合、各IDEデバイスの最大データ転送速度はシステムによって自動的に決定されます。	IDE Secondary Master UDMA Auto .....[ ] Mode 0 .....[ ] Mode 1 .....[ ] Mode 2 .....[ ] Mode 3 .....[ ] Mode 4 .....[ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort IDE Secondary Slave UDMA Auto .....[ ] Mode 0 .....[ ] Mode 1 .....[ ] Mode 2 .....[ ] Mode 3 .....[ ] Mode 4 .....[ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

On Chip Serial ATA設定

表9.10　On Chip Serial ATA設定セレクト

説明	選択肢
SATA Mode SATAモードはIDEに固定されています。	SATA Mode IDE ..... [■] RAID ..... [ ] AHCI ..... [ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
On-Chip Serial ATA Disabled: SATAコントローラを無効にします。 Combined Mode: PATAとSATAの組み合わせが可能です。最大3個のIDEデバイスをSATA用に1、PATA用に2使用できます。 Enhanced Mode: SATAとPATAの両方が有効です。最大3個のIDEドライブに対応します。 SATA Only: SATAがレガシー・モードで動作します。	On-Chip Serial ATA Disabled ..... [ ] Auto ..... [■] Combined Mode ..... [ ] Enhanced Mode ..... [ ] SATA Only ..... [ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
SATA PORT Speed Settings SATAポートの速度設定を無効にするか、強制的に「GEN I」または「GEN II」に設定します。	SATA PORT Speed Settings Disabled ..... [■] Force GEN I ..... [ ] Force GEN II ..... [ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
PATA IDE Mode PATA IDEモードは「Secondary」に固定されています。	PATA IDE Mode Secondary ..... [■] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
SATA Port シリアルATAチャネルをプライマリに設定します。 注 ： この項目が、唯一示されます。	SATA Port P0, P2 is Primary ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

Onboard Device

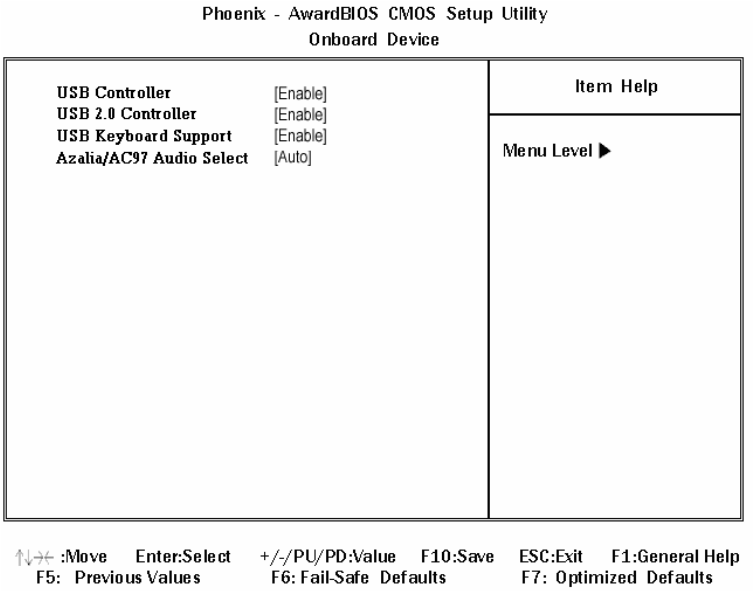
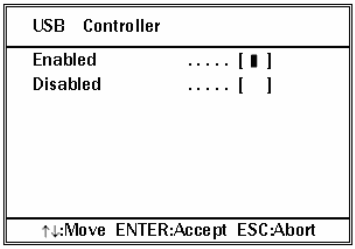
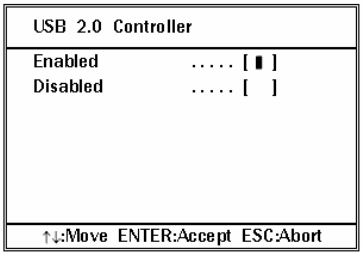
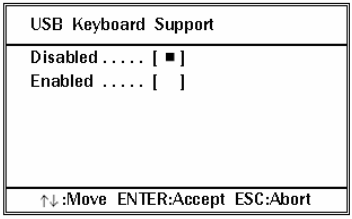
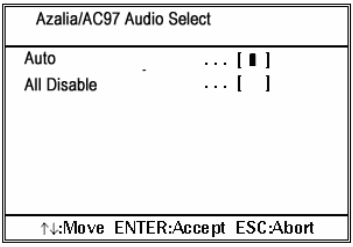

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Onboard Device
USB Controller [Enable]
USB 2.0 Controller [Enable]
USB Keyboard Support [Enable]
Azalia/AC97 Audio Select [Auto]
Item Help
Menu Level ▶
↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図9.10 Onboard Device

表9.11　On board deviceセレクト

説明	選択肢
USB Controller Onboard USB 機能の有効／無効を選択できます。通常はEnableでご利用ください。	
USB 2.0 Controller Onboard USB 2.0機能の有効／無効を選択できます。通常はEnableでご利用ください。	
USB Keyboard Support USBをSupportしないOSで、USBキーボードを使用する場合は、Enabledを選択します。 Windows XPなどUSBをSupportしているOSでは、Disabledでご使用ください。	
Azalia/AC97 Audio Select オーディオ機能の選択、デバイスの有効/無効を選択できます。通常はAutoでご利用ください。	

Super IO Device

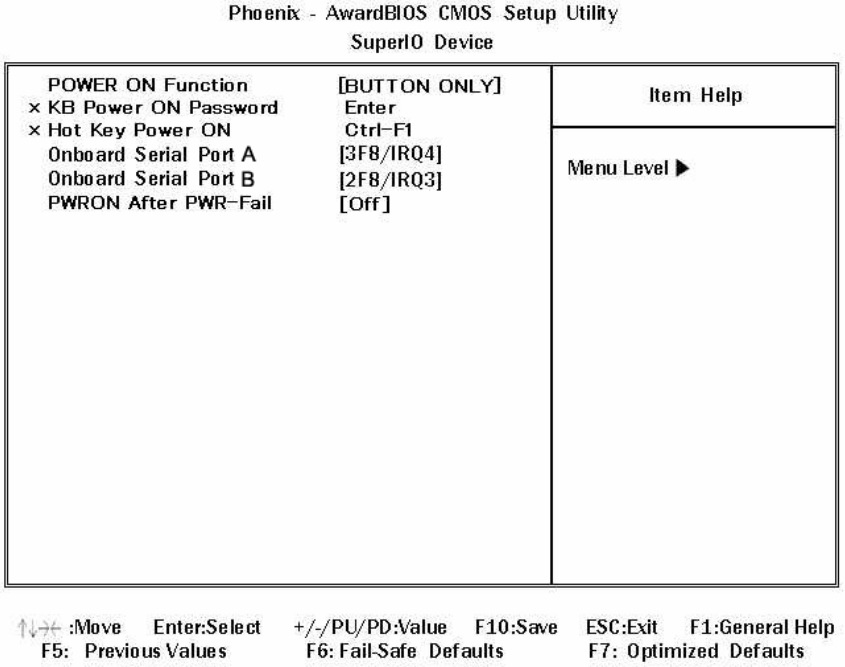
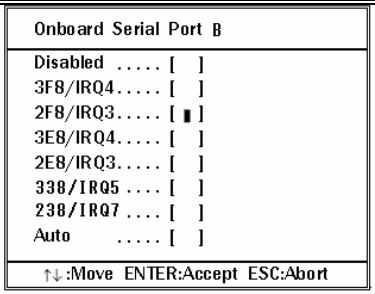
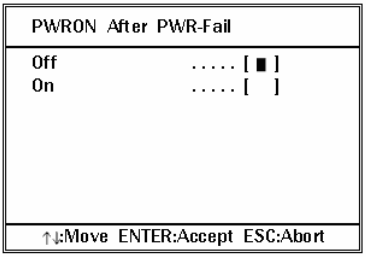

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
SuperIO Device
POWER ON Function [BUTTON ONLY]
× KB Power ON Password Enter
× Hot Key Power ON Ctrl-F1
Onboard Serial Port A [3F8/IRQ4]
Onboard Serial Port B [2F8/IRQ3]
PWRON After PWR-Fail [Off]
Item Help
Menu Level ▶
↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図9.11 SuperIO Device

表9.12 Super I/O deviceセレクト

説明	選択肢
Onboard Serial Port A シリアルポート1のアドレスおよび利用する割り込みを選択します。	Onboard Serial Port A Disabled .....[ ] 3F8/IRQ4.....[■] 2F8/IRQ3.....[ ] 3E8/IRQ4.....[ ] 2E8/IRQ3.....[ ] 338/IRQ5 ....[ ] 238/IRQ7 ....[ ] Auto .....[ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort

説明	選択肢
Onboard Serial Port B シリアルポート2のアドレスおよび利用する割り込みを選択します。	
PWRON After PWR-Fail 停電など電源異常発生後に電源が回復した時に常に起動します。	

Power Management Setup

電源管理セットアップでは、システム用途に合わせて最も効率的な省電を設定できます。

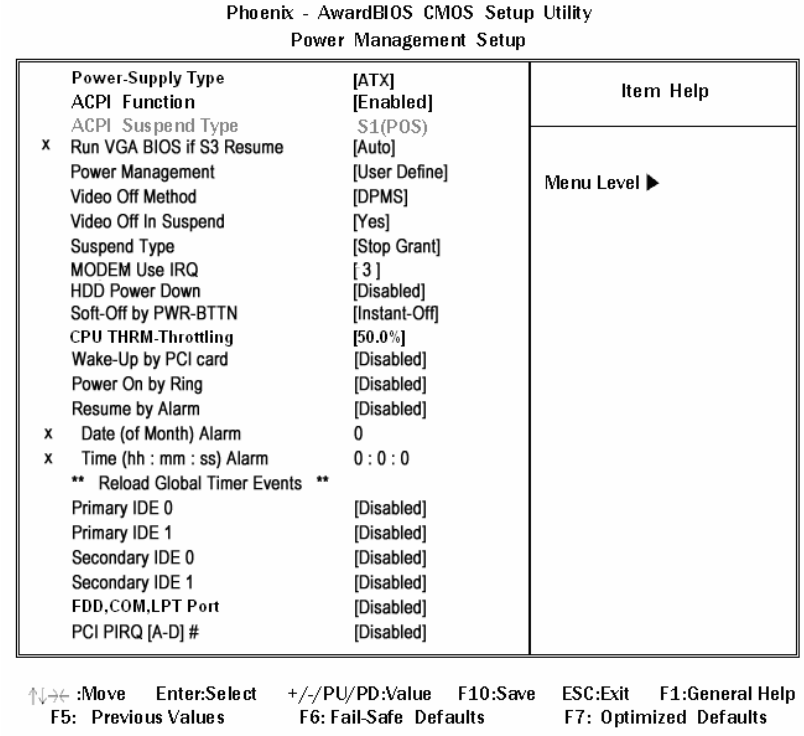
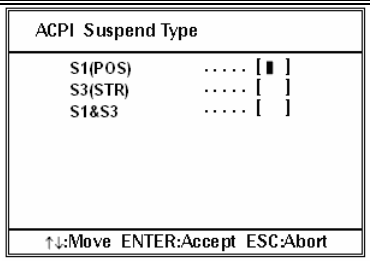
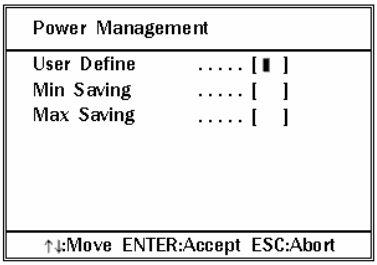
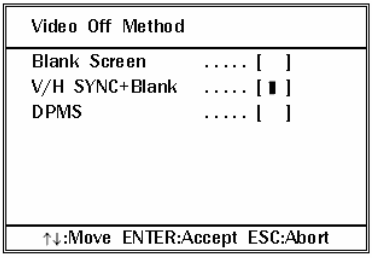
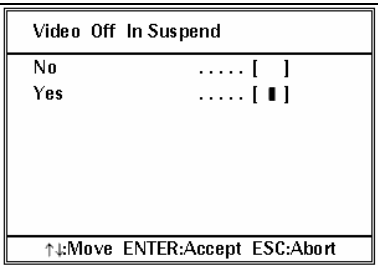
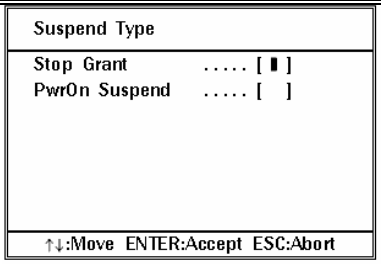
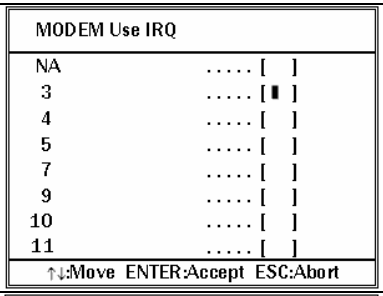
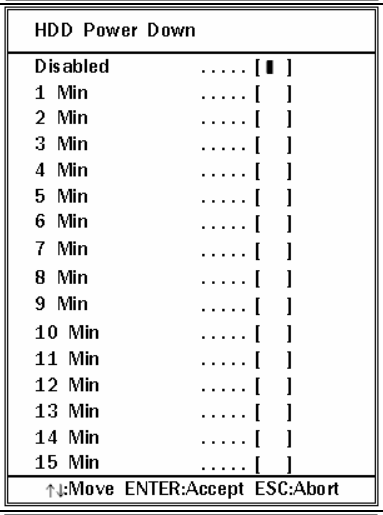
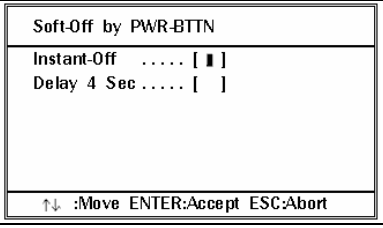

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Power Management Setup
Power-Supply Type [ATX]
ACPI Function [Enabled]
ACPI Suspend Type S1(POS)
x Run VGA BIOS if S3 Resume [Auto]
Power Management [User Define]
Video Off Method [DPMS]
Video Off In Suspend [Yes]
Suspend Type [Stop Grant]
MODEM Use IRQ [3]
HDD Power Down [Disabled]
Soft-Off by PWR-BTTN [Instant-Off]
CPU THRM-Throttling [50.0%]
Wake-Up by PCI card [Disabled]
Power On by Ring [Disabled]
Resume by Alarm [Disabled]
x Date (of Month) Alarm 0
x Time (hh : mm : ss) Alarm 0 : 0 : 0
** Reload Global Timer Events **
Primary IDE 0 [Disabled]
Primary IDE 1 [Disabled]
Secondary IDE 0 [Disabled]
Secondary IDE 1 [Disabled]
FDD,COM,LPT Port [Disabled]
PCI PIRQ [A-D] # [Disabled]
Item Help
Menu Level ▶
↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

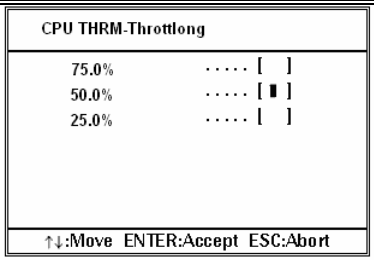
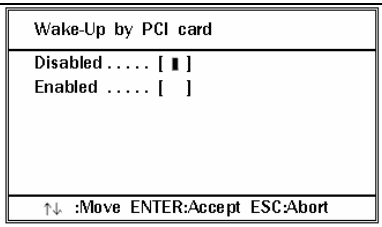
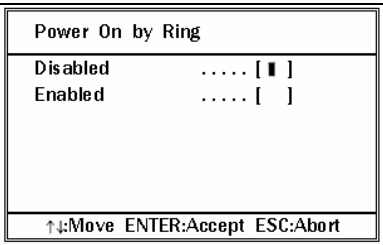
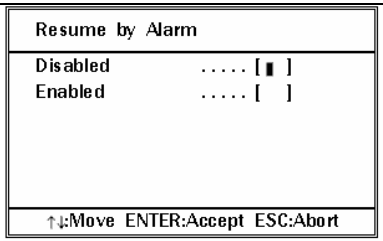
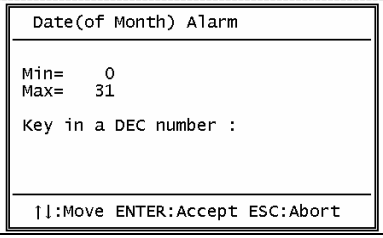
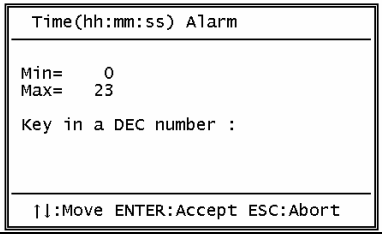
図9.12　Power Management Setup

表9.13　Power Management setupセレクト

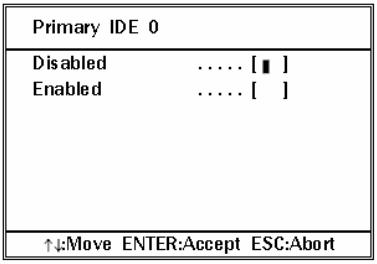
説明	選択肢
ACPI Function ACPI機能を有効にするにはEnabledを選択します。デフォルト設定は、"Enabled"です。Windowsインストール後に設定を変更すると、OSの再インストールが必要になります。	ACPI Function Enabled ..... [■] Disabled ..... [ ] ↑↓ :Move ENTER:Accept ESC:Abort
注：ACPI (Advanced Configuration and Power Interface)とは、電力管理に関する規格で、オペレーティングシステムがハードウェアの状態に関する情報を利用できるようにします。この規格を利用することにより、コンピュータは周辺機器の電源の入切を行い電力管理を向上させることができます。また、マウスまたはキーボード操作でコンピュータをウェイクアップさせることができるように、この規格により外部デバイスからコンピュータの電源の入切を行うことも可能です。	

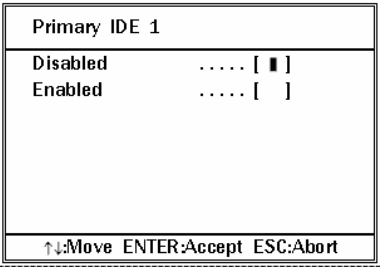
説明	選択肢
ACPI Suspend Type ACPIのサスペンドモードを選択します。	
Power management この設定では、システムのドーズモード、スタンバイモード、サスペンドモードの各タイマ機能を制御します。このカテゴリを使用して、省電力機能のタイプ(度合い)を選択します。 **User Define:**各モードを個別に設定できます。有効にした場合の設定範囲は1分～1時間です(例外: HDDパワーダウンの設定範囲は1分～15分)。 **Min Saving:**最小限の電力管理を行います(スタンバイモード= 1時間、サスペンドモード= 1時間、HDDパワーダウン= 15分)。 **Max Saving:**最大限の電力管理を行います(スタンバイモード= 1分、サスペンドモード= 1分、HDDパワーダウン= 1分)。	
Video Off Method この項目は、モニタを空白にする方式を決定することができます。 **Blank Screen:**このオプションは、ビデオバッファに空白を書き込みます。 **V/H SYNC+Blank:**このオプションは、システムは垂直・水平同期ポートの電源が切断され、ビデオバッファに空白を書き込みます。 **DPMS:**ディスプレイの初期電力管理信号	
Video Off In Suspend ここでは、モニタ画面を消す方法が設定されます。	

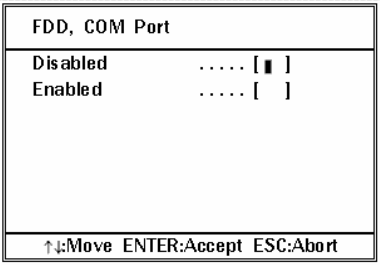
説明	選択肢
Suspend Type Suspend typeの選択を有効にします。オプションは、”Stop Grant”と"PwrOn Suspend"です。	
MODEM Use IRQ モデムへの入電によって、システムを省電力モードから自動的にレジュームさせたい場合は、ここでモデムが使用する割り込み要求ライン(IRQ)を指定します。 この機能を使用するために、Fax/モデムをキーボードコンピュータのWake On Modemコネクタに接続する必要がある場合があります。	
HDD Power Down Enabledに設定すると、指定の時間を過ぎてもシステム操作が行われない場合に、ハードディスクドライブが省電力モードに移行します。他のデバイスは、そのままアクティブです。	
Soft-Off by PWR-BTTN パワーボタンにより、Soft-Off(S5)する場合、パワーボタンが機能するまでの時間を指定します。「Instant-Off」はパワーボタン押した後すぐに機能します。「Delay 4 sec」の場合は、パワーボタンを4秒間押し続けると機能します。ただし、Windowsではパワーボタンの制御がOS側で行われます。	

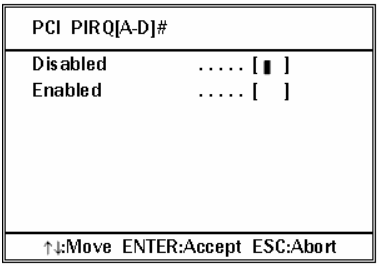
説明	選択肢
CPU THRM-Throttling システムがDozeモードに入った際に、CPUクロックの動作時間が下がります。この項目では、そのパーセンテージを設定することができます。	
Wake-Up by PCI card 「Enabled」に設定すると、On Board LANのWOL機能が有効になります。ただし上記「PCI Express Wake」設定も同時にEnableとする必要があります。	
Power On by Ring "Enabled"に設定すると、SERIAL 1またはSERIAL 2に接続されたモデムへの着信(Ring信号)によるシステムの起動が行えます。	
Resume by Alarm Enabledにすると、RTC (リアルタイムクロック)アラームによってシステムを起動する日時を設定できます。	
	

説明	選択肢
グローバルタイマイベントの再ロード： Enabledにすると、登録されているデバイスごとに発生するイベントにより、スタンバイモードのグローバルタイマが再始動します。	









PnP/PCI Configuration Setup

ここでは、PCIバスシステムの構成について説明します。PCI (Personal Computer Interconnect)は、I/Oデバイスが独自の特殊コンポーネントを使用して通信する際に、CPU自身が使用している速度に近い速度で動作できるようにするシステムです。技術的に経験豊富なユーザーでない限り、デフォルト設定には変更を加えないでください。

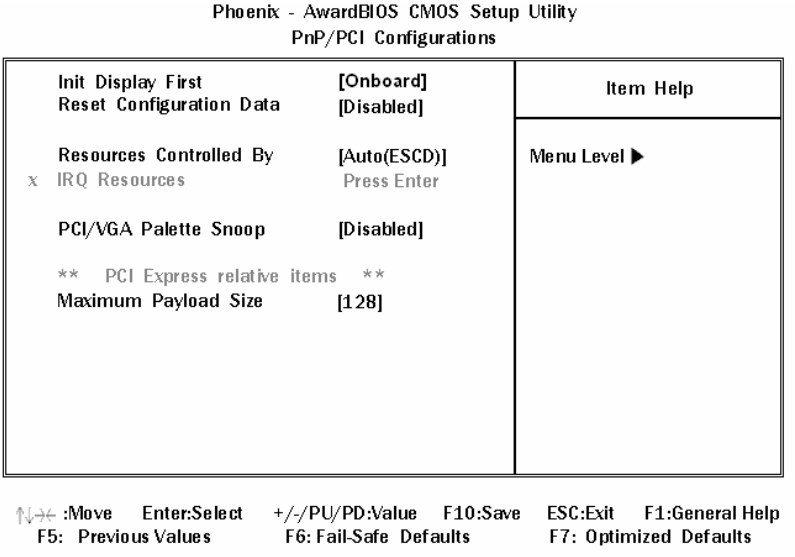
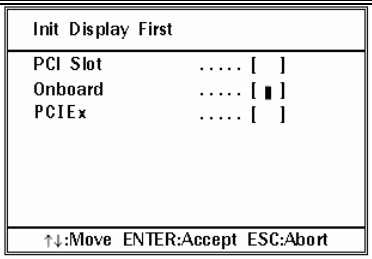
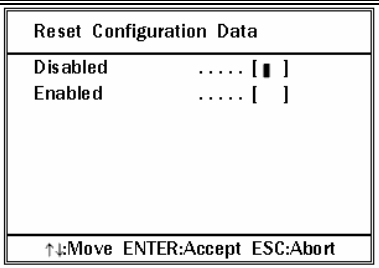
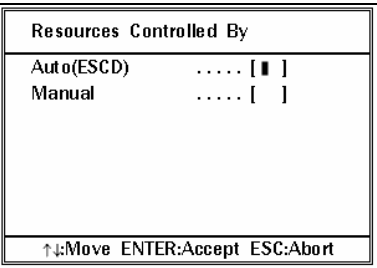
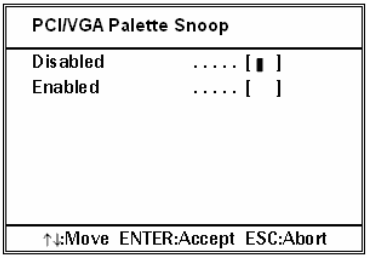
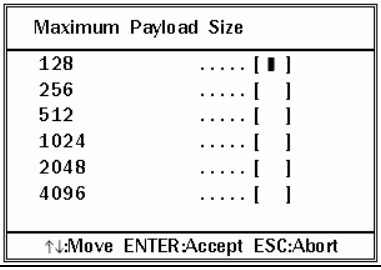

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
PnP/PCI Configurations
Init Display First [Onboard]
Reset Configuration Data [Disabled]
Resources Controlled By [Auto(ESCD)]
x IRQ Resources Press Enter
PCI/VGA Palette Snoop [Disabled]
** PCI Express relative items **
Maximum Payload Size [128]
Item Help
Menu Level ▶
↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図9.13 PnP/PCI Configuration Setup

表9.14 PCI PnP/PCI Configuration Setupセレクト

説明	選択肢
Init Display First システム上の他のディスプレイ装置を初期化する前にオンボードビデオディスプレイを初期化します。これにより、オンボードディスプレイが1次ディスプレイになります。	

説明	選択肢
Reset Configuration Data 通常、このフィールドはDisabledのままにしておきます。COMのEnable / Disableの変更など、リソース割り当てのリセットが必要になった際に、このフィールドをEnabledに設定してください。セットアップの終了時、ESCD(Extended System Configuration Data)がリセットされます。	
Resource Controlled By Award Plug and Play BIOSには、すべてのブートおよびプラグアンドプレイ互換デバイスを自動設定する機能があります。Autoを選択した場合は、BIOSによって自動的に割り当てられるため、すべての割り込み要求(IRQ)フィールドとDMA割り当てフィールドが非表示になります。	
PCI/VGA Palette Snoop 一部の標準でないVGAディスプレイカードでは、色を適切に表示できないことがあります。この項目により、MPEG ISA/VESAVGAカードをPCI/VGAとともに動作させるか設定することができます。	
Maximum Payload Size PCI Expressデバイスの最大TLPペイロードサイズ(バイト単位)は128のみをサポートしております。128のままご使用ください。	

PC Health Status

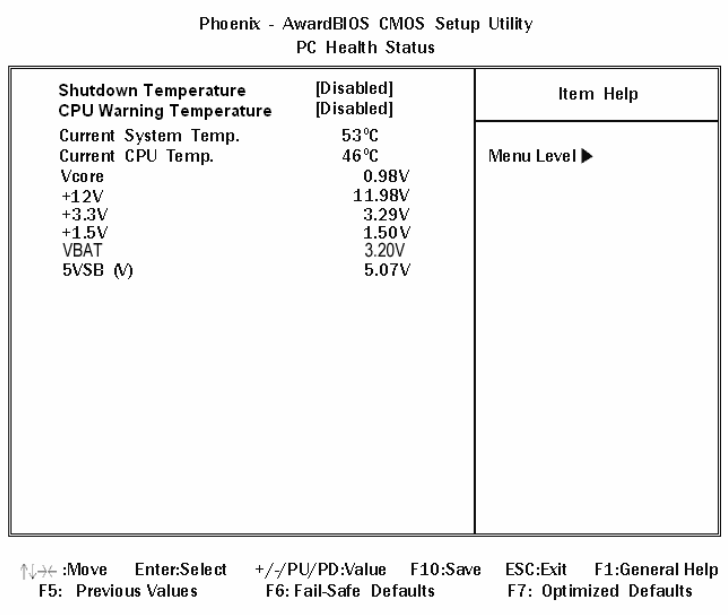


図9.14　PC Health Status

BIOSは、このウィンドウにパソコンの環境状態を表示します。

表9.15　PC Health Statusセレクト

説明	選択肢
Shutdown Temperature システムが自動的にシャットダウンする温度の閾値を設定することができます。 この機能を有効にすることで、過熱によるシステムへのダメージを予防することができます。	CPU Temprature Function Disabled ..... [ ] 75℃/167℉ ..... [ ] 80℃/176℉ ..... [ ] 85℃/185℉ ..... [ ] 90℃/194℉ ..... [ ] 95℃/205℉ ..... [ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
CPU Warning Temperature システムが警告を鳴らす温度の閾値を設定することができます。 この機能を有効にすることで、過熱によるシステムへのダメージを予防することができます。	CPU Temprature Function Disabled ..... [ ] 75℃/167℉ ..... [ ] 80℃/176℉ ..... [ ] 85℃/185℉ ..... [ ] 90℃/194℉ ..... [ ] 95℃/205℉ ..... [ ] ↑↓:Move ENTER:Accept ESC:Abort
Current CPU Temp.	現在のCPU温度が表示されます。
Current System Temp.	現在のシステム温度が表示されます。
Vcore / +12V / +1.8V / +5V / +3.3V / 3.3VSB	現在の電圧が表示されます。

Frequency/Voltage Control

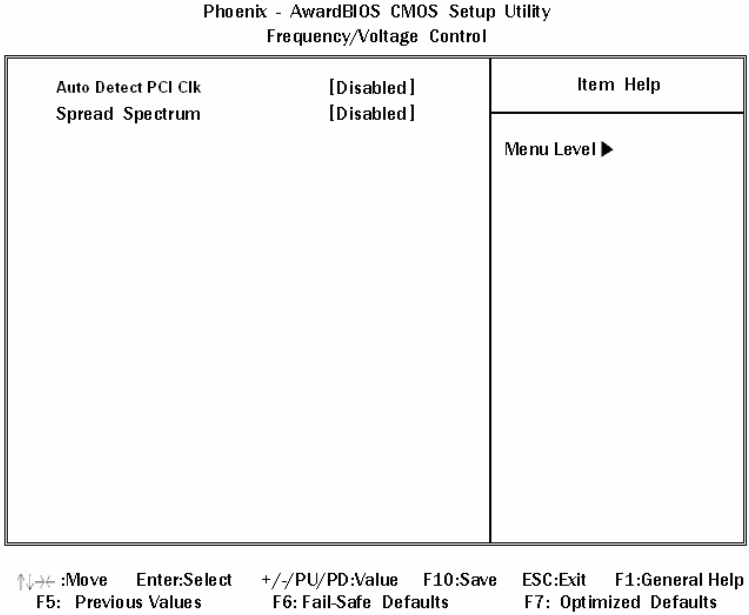
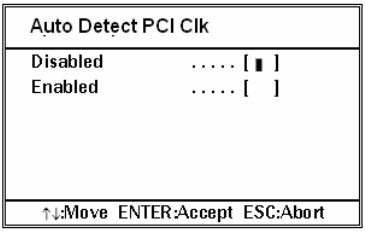
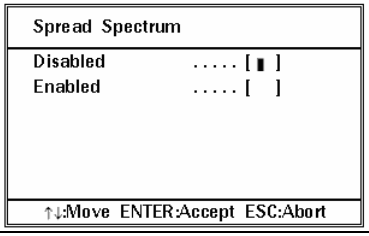

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Frequency/Voltage Control
Auto Detect PCI Clk [Disabled]
Spread Spectrum [Disabled]
Item Help
Menu Level ▶
↑↓→← :Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

図9.15 Frequency/Voltage Control

表9.16 Frequency/Voltage Control Selections

説明	選択肢
Auto Detect PCI Clk PCIクロックの自動検出を有効/無効にできます。	
Spread Spectrum システムクロックジェネレータがパルスを生成すると、パルスによって生成される極限値がEMIを超過します。パルスのスペクトラム拡散変調を有効にすると、突出した極限値が緩やかなカーブに変わるため、EMIを軽減できます。この方法で、タイミングが重要なデバイスの問題を軽減できる場合があります。	

Defaults Menu

メインメニューからDefaultsを選択すると、次に説明する2つのオプションが表示されます。

■Load Fail-Safe Defaults

"Load Fail-Safe Defaults"の項目に対して<Enter>キーを押すと、確認ダイアログボックスが表示され、次のようなメッセージが表示されます。

```
Load BIOS Defaults (Y/N) ? N
```

<Y>キーを押すと、最も安定した最小限の性能システム動作のためのBIOSデフォルト値がロードされます。

■Load Optimized Defaults

"Load Optimized Defaults"の項目に対して<Enter>キーを押すと、確認ダイアログボックスが表示され、次のようなメッセージが表示されます。

```
Load setup Defaults (Y/N) ? N
```

<Y>キーを押すと、最適性能なシステム動作のための工場設定であるデフォルト値がロードされます。

Supervisor/User Password Setting

スーパーバイザーパスワードまたはユーザーパスワードまたはその両方を設定することができます。この2つの違いは次のとおりです。

スーパーバイザーパスワードは、セットアップメニューのオプションを入力および変更することができます。

ユーザーパスワードは、セットアップメニューのオプションを入力することはできますが、変更する権利は持っていません。この機能を選択すると、画面の中央に次のようなメッセージが表示され、パスワードの作成を支援します。

■ENTER PASSWORD

8文字以下のパスワードを入力し、<Enter>キーを押します。ここで入力したパスワードで、以前に入力したパスワードがCMOSメモリから消えることはありません。パスワードを確認するように要求されます。再びパスワードを入力して<Enter>キーを押します。または、<Esc>キーを押して選択を中断し、パスワードを入力しないこともできます。

パスワードを無効にするには、パスワードを入力するようにプロンプト表示されたときに<Enter>キーを押すだけです。パスワードが無効になることを確認するメッセージが表示されます。パスワードを無効にすると、システムはブートし、自由にSetupに入ることができます。

■PASSWORD DISABLED

パスワードを有効にしておくと、Setupに入ろうとするたびに、パスワードを入力するように要求されます。これによって権限を持たない人物がシステム構成を変更することが防止されます。

さらに、パスワードが有効になっていると、システムをリブートするたびに、BIOSはパスワードを要求します。これによって権限を持たない人物がコンピュータを使用することが防止されます。

Advanced BIOS FeaturesメニューのSecurityオプション(BIOS Features Setupを参照)で、パスワードをいつ要求するかを決めることができます。SecurityオプションをSystemに設定すると、ブート時とSetupに入るときの両方でパスワードが要求されます。Setupに設定すると、Setupに入ろうとしたときにのみパスワードが要求されます。

Exit Selecting

■Save & Exit Setup

この項目に対して<Enter>キーを押すと、次のような確認を求めるメッセージが表示されます。

```
Save to CMOS and EXIT (Y/N)? Y
```

<Y>キーを押すと、メニューで行った選択内容がCMOSに格納されます。CMOSは、システムの電源をオフにしても保持されるメモリの特別な領域です。次回にコンピュータをブートすると、BIOSは、CMOSに格納されたSetup選択内容に基づいてシステムを構成します。値を保存した後、システムは再起動します。

■Exit Without Saving

この項目に対して<Enter>キーを押すと、次のような確認を求めるメッセージが表示されます。

```
Quit without saving (Y/N)? Y
```

これによって、変更内容をCMOSに格納せずにSetupを終了することができます。この場合、以前の選択内容が依然として有効です。Setupユーティリティが終了し、コンピュータが再起動します。

第１０章 付録

メモリマップ

表10.1 メモリマップ

メモリセグメント	コメント
00000h - 9FFFh	0 - 640K DOS領域
A0000h - BFFFFh	ビデオバッファ
B0000h - B7FFFh	モノクロアダプタの範囲
C0000h - CFFFFh	ビデオBIOS
D0000h - DFFFFh	拡張領域
E0000h - EFFFFh	拡張システムBIOS領域
F0000h - FFFFFh	システムBIOS領域
100000h - FFFFFFFFh	拡張メモリ領域
00100000 - Top of Main Memory	メインDRAMアドレス範囲
Top of Main Memory	拡張SMRAMアドレス範囲
Top of Main Memory To 4GB	PCIメモリアドレス範囲
FEC0000h - FECFFFFFh, FEE00000h - FEEFFFFFh	APIC Configurationスペース
FFE0000h - FFFFFFFFh	High BIOS領域

I/Oポートアドレス

表10.2　I/Oポートアドレス

アドレス	サイズ	説明
0000 - 0CF7	16 bytes	DMAコントローラ
0010 - 001F	16 bytes	リザーブ
0020 - 0021	2 bytes	PIC割り込みコントローラ
0022 - 003F	30 bytes	リザーブ
0040 - 0043	4 bytes	システムタイマ1
0044 - 005F	24 bytes	リザーブ
0060	1 byte	キーボードコントローラ
0061 - 0063	3 bytes	リザーブ
0064	1 byte	キーボードコントローラ
0065-006F	11bytes	リザーブ
0070 - 0073	4 bytes	RTCリアルタイムクロック
0074 - 007F	12bytes	リザーブ
0080 - 0090	17 bytes	DMAページレジスタ
00A0 - 00A1	2 bytes	割り込みコントローラ2
00A2 - 00BF	28 bytes	リザーブ
00C0 - 00DE	31 bytes	DMAコントローラ2
00E0 - 00EF	16 bytes	リザーブ
00F0 - 00FF	16 bytes	数値演算プロセッサ
01F0 - 01F7	8 bytes	プライマリIDEコントローラ
0274 - 0277	4 bytes	リザーブ (ISA PnP)
0279 - 0279	1 byte	リザーブ
0290 - 029F	16 bytes	リザーブ
02A0 - 02A7	8 bytes	リザーブ
02A8 - 02AF	8 bytes	リザーブ
02B0 - 02B7	8 bytes	リザーブ
02C0 – 02C7	8 bytes	リザーブ
02C8 – 02CF	8 bytes	リザーブ
02F8 - 02FF	8 bytes	SRRIAL B
0388 - 038D	6 bytes	リザーブ
03B0 - 03BB	12 bytes	Video (Monochrome)
03C0 - 03DF	32 bytes	Video (VGA)
03F6	1 byte	プライマリ IDE
03F8 - 03FF	8 bytes	SERIAL A
0400 - 04BF	191bytes	リザーブ
04D0 - 04D1	2 bytes	リザーブ
0500 - 051F	32 bytes	リザーブ(SMBus)
0800 - 088F	143 bytes	リザーブ
0A79 - 0A79	1 byte	リザーブ
0D00 - FFFF	6,2207 byte	PCIバス

割り込みレベル一覧

表10.3　ハードウェア割り込みレベル(出荷時設定)

種類	8259	優先順位	内容	ベクタ
NMI		高	-I/O CHK	02H
IRQ0	MASTER	↑	タイマ0	08H
IRQ1	〃	|	キーボード	09H
IRQ2	〃	|	システム予約	0AH
IRQ8	SLAVE	|	リアルタイムクロック	70H
IRQ9	〃	|	システム予約	71H
IRQ10	〃	|	未使用(ユーザー使用可)	72H
IRQ11	〃	|	システム予約	73H
IRQ12	〃	|	PS/2マウス	74H
IRQ13	〃	|	コ・プロセッサ	75H
IRQ14	〃	|	プライマリ IDE	76H
IRQ15	〃	|	システム予約	77H
IRQ3	MASTER	|	シリアルポートB(SERIAL B)	0BH
IRQ4	〃	|	シリアルポートA(SERIAL A)	0CH
IRQ5	〃	|	未使用(ユーザー使用可)	0DH
IRQ6	〃	↓	未使用(ユーザー使用可)	0EH
IRQ7	〃	低	未使用(ユーザー使用可)	0FH

電池

■電池仕様

本製品に使用している電池は下記になります。

・品種　　：リチウム1次電池
・型式　　：BR-2032
・メーカ　　：パナソニック
・公称電圧　　：3V
・公称容量　　：200mAh
・リチウム含有量　：1g以下

■電池の取り外し

下記記載を参照し、電池を取り外してください。

(1) 背面のネジを取り外して背面カバーを取り外します。

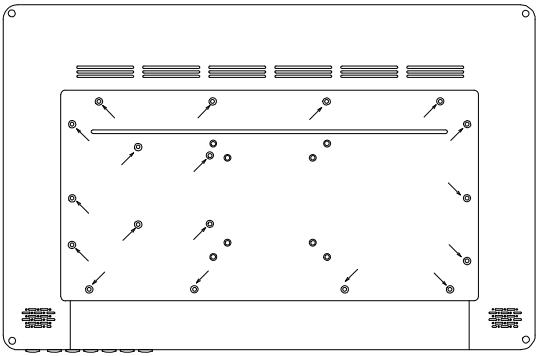


図10.1　電池の取り外し

(2) 下記を参照し、電池ホルダーから電池を取り外します。

図10.2　電池の取り外し2

■電池の破棄

取り外したバッテリを廃棄される場合には自治体の指示に従って適切に廃棄してください。

改訂履歴

年　月	改訂内容
2012年5月	内容の一部修正
2013年11月	内容の一部修正
2014年4月	注意事項の追記

DIT-1000W18TV
ユーザーズマニュアル

発行　株式会社コンテック　　2014年4月改訂
大阪市西淀川区姫里3-9-31　〒555-0025
日本語　http://www.contec.co.jp/
英語　http://www.contec.com/
中国語　http://www.contec.com.cn/

本製品および本書は著作権法によって保護されていますので無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

[01202012]　分類番号　NA01751
[04162014_rev3]　部品コード　LYNP473